

倉敷埋蔵文化財 センター年報 18

—令和元・2年度—

倉敷埋蔵文化財センター

2022.3

序 文

本書は、倉敷埋蔵文化財センターが令和元年度と2年度に実施した発掘調査事業及び教育普及事業について、概要をまとめたものです。

発掘調査事業につきましては、遺跡の保護を目的として平成30年度から令和2年度にかけて中津貝塚の範囲確認調査を実施し、その成果をまとめた「倉敷市埋蔵文化財発掘調査報告第18集『中津貝塚』」を刊行しました。また、天狗山古墳・勝負砂古墳・二万大塚古墳といった有力古墳が集中する真備町下二万地区にある内出1号墳の測量調査を行い、その成果を本書に掲載しました。

開発行為に伴う発掘調査では、例年通り確認調査が主体となりましたが、令和2年度には塙生遺跡の全面発掘を実施しました。

教育普及事業につきましては、令和元年度終盤の令和2年2月までは計画通り実施することができました。しかし、翌3月からは新型コロナウイルス感染拡大の影響で、企画した主催講座をすべて中止せざるを得ない状況が続き、1年後の令和3年2月から3月までの限られた期間に3講座を実施するにとどめました。コロナ禍が私たちの社会や暮らしに深刻な影響を与える現在、対面方式の講座等を企画する場合は、感染予防対策は必須となります。今後も、主催講座に限らず、出前講座の講師派遣や発掘調査の現地説明会等において、密を避けるために、広い会場の確保や参加人数制限などを含めた対策を取り入れながら実施していきたいと思います。

本書が埋蔵文化財保護について、理解と認識を深めていただく一助となれば幸いに存じます。

最後になりましたが、各事業の実施にあたり、ご指導ご協力を賜りました多くの方々に深く感謝申し上げます。

令和4年3月31日

倉敷埋蔵文化財センター
館長 小野雅明

目 次

■令和元年度■

I 組織	1
II 事業の概要	1
III 教育普及事業報告	5
IV 調査事業報告	7
船元貝塚確認調査報告	11
塩生遺跡確認調査報告	12
上東遺跡確認調査報告	13
別所遺跡確認調査報告	14
柿ノ木遺跡確認調査報告	15
V 寄贈図書一覧	16

■令和2年度■

I 組織	25
II 事業の概要	25
III 教育普及事業報告	28
IV 調査事業報告	29
塩生遺跡発掘調査概要	33
溝落遺跡発掘調査報告	35
上東遺跡確認調査報告	37
広田山古墳確認調査報告	38
内出1号墳測量調査報告	39
V 寄贈図書一覧	41

附編1 下津井釜島採集の遺物

附編2 平成30年7月豪雨と真備歴史民俗資料館被災資料

例 言

1. 本書は、倉敷埋蔵文化財センターが令和元～2年度にかけて行った埋蔵文化財保護行政の概要についてまとめたものである。
2. 本書の執筆は、小野雅明・藤原好二・鍵谷守秀・内田智美・那須玲子・日下美樹が分担し、調査事業報告についてはそれぞれ文責を記した。なお、岡嶋隆司氏には附編1の玉稿を賜った。全体編集は藤原が行った。
3. 調査事業報告において、調査報告としているものについては本報告をもって正報告とする。
4. 調査地点位置図で使用した地形図は、倉敷市発行の50,000分の1の都市計画図を縮小したものであり、その他の位置図には、倉敷市発行の都市計画図を複製または縮小したものを使用した。
5. 本書に関する実測図・写真・遺物等は、全て倉敷埋蔵文化財センターで保管している。

令和元(2019)年度

I 組 織

埋蔵文化財センターは、文化財保護課の一施設として、市域内の埋蔵文化財に係る業務を一括して担当している。令和元年度における埋蔵文化財センターの組織及び人員は下記のとおりとなっている。



文化財保護課	課 長	鍵谷 守秀
埋蔵文化財センター	館 長	浅野 光正
タ	主 幹	小野 雅明
タ	主 任	藤原 好二
タ	会計年度任用職員	内田 智美
タ	タ	那須 玲子
タ	タ	日下 美樹

(職名等は令和2年3月31日現在)

II 事業の概要

1 調査事業

- (1) 事前協議 Fax等による埋蔵文化財包蔵地照会は571件と前年度比で約10%の減であった。真備町域の照会が一段落したことに加え、コロナ禍の影響もあり、これまでの増加傾向にややブレーキがかかったようである。また、開発行為指導要綱に基づく事前協議は5件、墓地経営許可に関する事前協議は5件であった。このうち上東遺跡に係る2件について文化財保護法に基づく届出が提出された。
- (2) 発掘調査 令和元年度は重要遺跡の範囲確認調査1件、開発に伴う確認調査11件、立会調査を延べ61件実施した。昨年度に続いて実施した中津貝塚の範囲確認調査では、縄文時代の土壙墓2基が新たに確認された。開発に伴う確認調査においては、上東遺跡周辺における案件が3件と例年より落ち込んでいる。船元貝塚の確認調査では、縄文ではなく比較的新しい時期の貝層が確認された。これまで調査例のなかった別所遺跡や柿ノ木遺跡では中世の遺構・遺物が確認された。立会調査は、公共事業に伴うものが4件、民間の開発に伴うものが57件である。
- (3) 測量調査 真備町尾崎に所在する瀬戸2号墳について、墳丘形態の確認を主目的とした地上レーザー測量調査を実施した結果、前方後円墳ではないことを確認した。
- (4) 整理作業 次年度の報告書刊行に向けて、中津貝塚出土遺物の整理作業を実施した。また、平成30年7月豪雨により被災した真備歴史民俗資料館展示品の修復作業を行った。

2 教育普及事業

- (1) 主催講座等 春の遺跡見学会など、延べ20回の講座等を実施。延べ参加人数3,019人。年度末に実施予定であった山城探訪講座は、鬼ノ城（総社市）を予定していたが、新型コロナ感染拡大により中止をよぎなくされた。

講座・イベント名	実施日	内 容	参加人数
春の遺跡見学会④	5/11（土）	古代吉備の遺産を訪ねる	32人
古代の土笛を作ろう①	7/24（水）	はにわ粘土を用いた土笛作り	10人
古代の土笛を作ろう②	7/24（水）	タ	15人
紙すきでハガキを作ろう	7/26（金）	すき棒を自作してのハガキ作り	8人
古代の勾玉を作ろう	7/31（水）	高麗石を用いた勾玉作り	14人
はにわの消しゴムを作ろう	8/2（金）	ねんど消しゴムのはにわ作り	14人
光る粘土のはにわ作り	8/7（水）	螢光粘土を用いたはにわ作り	16人
ガラスでとんぼ玉を作ろう①	8/9（金）	ガラスを用いたとんぼ玉作り	6人
ガラスでとんぼ玉を作ろう②	8/9（金）	タ	6人
ライフパークの集い	8/18（日）	ミニチュア土器等の発掘体験	1,959人
らでん細工の朱肉ケース	11/7（木）	螺鈿細工による朱肉ケース作り	14人
とんぼ玉のアクセサリー①	11/14（木）	ガラスを用いたとんぼ玉作り	8人
とんぼ玉のアクセサリー②	11/14（木）	タ	9人
秋の考古学講座 「桃太郎伝説」と古代吉備」	11/17（日）	桃太郎伝説のルーツを探る	45人
タ	11/24（日）	吉備の大首長墓 植築遺跡	41人
タ	12/1（日）	温羅の城 鬼ノ城	42人
こどもまつり	2/2（日）	とんぼ玉のストラップ作り	747人
大人のランプシェード	2/6（木）	紙細工によるランプシェード作り	10人
オープン陶土でブローチを作ろう	2/13（木）	縄文時代の土製耳飾り作り	11人
勾玉の首飾り	2/20（木）	高麗石を用いた勾玉の首飾り作り	12人

(2) 出前講座等講師派遣 古代の土笛作り等、延べ12回の派遣。延べ参加人数288人。

派遣内容	開催日	依頼団体	参加人数
倉敷の歴史を学ぼう	4/26（金）	倉敷公民館	79人
博物館実習	5/15（水）	倉敷芸術科学大学	23人
櫛築遺跡案内	5/17（金）	港区役所古代史研究会	17人
古代の土笛作り	6/12（水）	草の会	26人
放課後子ども教室指導員研修会	7/2（火）	生涯学習課	35人
古代の土笛作り	8/1（木）	川辺小児童クラブ	30人
古代模様のしおり作り	8/21（水）	上成小学校児童クラブ	21人
古代の土笛作り	8/22（木）	くらしき夢クラブ	14人
古代模様のしおり作り	8/29（木）	PPPひまわり	10人
吉備の古墳を巡る	1/15（水）	玉島西公民館	14人
タ	1/17（金）	玉島西公民館	14人
古代の土笛作り	1/30（木）	ふれあい教室（玉島）	5人

(3) 発掘調査現地説明会等

開催遺跡	開催日	内 容	参加人数
中津貝塚	1/18（土）	範囲確認調査の一般向け説明会	150人

(4) 報告書等の刊行

倉敷埋蔵文化財センターリーフレット（改訂版）
A6裁 5,000部 令和2年9月刊行

倉敷埋蔵文化財センター年報17
A4判 本文53頁 500部 令和2年2月刊行

(5) 資料の貸出

貸出期間	資料名	貸出先	使用目的
4/26（金）～ 2020/3/31（火）	船倉貝塚出土 人骨 2体	4点 金沢大学 新学術創成研究機構	人骨からの全ゲノム解析

(6) 写真等の掲載許可

許可日	資料名・数量	許可先	掲載物
2/5（水）	船倉貝塚3号土壙墓 写真 1点	(株) 雄山閣	山田康弘論考『季刊考古学 別冊31号』 に掲載するため

3 利用者数

展示・講座等を含めた令和元年度の利用者数は下表のとおりである。総利用者数は14,831人で、昨年度比約16%の増となり、一昨年度の15,236人に近づこうとしたが、年度末には新型コロナ感染拡大によって失速したと言える。

《令和元年度月別利用者数》

月	団体数	来館者数	講座等	利用者数計	開館日数	1日平均利用者数
4		966	79	1,045	26	40
5		928	72	1,000	26	38
6	8	1,182	26	1,208	26	46
7	4	1,105	82	1,187	26	46
8	2	1,387	2,066	3,453	27	128
9	2	972		972	25	39
10	3	722		722	27	27
11	3	922	117	1,039	26	40
12		464	42	506	23	22
1	2	653	183	836	23	36
2	2	2,086	100	2,186	25	87
3		677		677	26	26
合計	26団体	12,064人	2,767人	14,831人	306日	48人

4 寄贈資料

令和元年度には下記の考古資料の寄付を受けた。

寄贈日	寄贈者名	資料名	数量
6/18（火）	岡部 学	湾戸遺跡出土須恵器（甕）	1点

III 教育普及事業報告

1 春の遺跡見学会②

～古代吉備の遺産を訪ねる～

日 時 令和元年5月11日（土）

講 師 小野雅明（倉敷埋蔵文化財センター）

対 象 一般

参加者 32人

今回の春の遺跡見学会では、「『桃太郎伝説』の生まれたまち おかやま」が日本遺産に認定されたことを記念して、その構成文化財を訪ねた。はじめに、弥生墳丘墓としては最大級の楯築遺跡を見学し、円礫が露出する墳丘や旋帯文石の神秘的な造形を観察した。続いて、全国第4位の規模を誇る造山古墳に移動し、全長360mの墳丘を縦断した。前方部に置かれた阿蘇凝灰岩製の石棺を見た後は造山古墳の陪塚群を巡り、復元整備中の千足古墳を眺めた。そして、吉備路風土記の丘では、こうもり塚古墳を見学した。その長大な横穴式石室に入ると、玄室には浪形岩製の石棺が安置され、部屋の四周をめぐる石材の大きさに驚かされた。昼食後は、作山古墳に向かい、全長282mの前方後円墳を縦断した。丘陵の自然地形を最大限に利用し、墳丘をより大きく見せる独特の形状には吉備勢力の見栄や意地が込められているようで興味深かった。最後に訪れた箭田大塚古墳では、こうもり塚古墳と肩を並べる規模の横穴式石室に入り、被葬者像について想像を膨らませた。



2 夏休み体験講座

～紙すきでハガキを作ろう～

日 時 令和元年7月26日（金）

講 師 日下美樹（倉敷埋蔵文化財センター）

対 象 小学4～6年生

参加者 8人

自作のすき枠を使って紙をすき、オーソドックスな白色と色付きのハガキ2枚を作り、その後、折り紙で作った人形埴輪やイルカ等の柄を付け、オリジナルのハガキに仕上げる講座。参加者は1枚目の紙すき工程では講師等の補助を受けながら紙をすいていたが、2枚目は慣れた様子で自分で上手に作ることができた。作ったすき枠は、持ち帰って自宅でもハガキ作りができるように牛乳パックでの作成方法も伝えた。子ども達からは「自宅でも作ってみたい。」という声が聞かれた。



3 秋の考古学講座

～「桃太郎伝説」と古代吉備～

日 時 令和元年11月17日・11月24日・12月1日(日)

講 師 第1回 古市秀治(岡山県立瀬戸高等学校)

「桃太郎伝説のルーツを探る」

第2回 福本 明(岡山商科大学)

「吉備の大首長墓 横築遺跡」

第3回 平井典子(総社市埋蔵文化財学習の館)

「温羅の城 鬼ノ城」

会 場 ライフパーク倉敷「視聴覚ホール」

対 象 一般

参加者 128人(延べ人数)

平成30年に倉敷市などが申請した「桃太郎伝説」が生まれたまち おかやまが日本遺産に認定されました。今回の講座ではこれを記念して、桃太郎伝説の成り立ちと関連遺跡をテーマとして取り上げました。

第1回の古市秀治氏は、岡山県が桃太郎のルーツであるという話は昭和初期からのものであること、吉備津彦の伝承にも多くの変遷があることを紹介された。第2回の福本 明氏は、横築遺跡の構造を丁寧に解説するとともに、弥生時代から古墳時代にかけての変遷を語る上で欠かせない遺跡であることを強調された。第3回の平井典子氏は鬼ノ城の構造と合わせて、当時の国際情勢の解説を行い、鬼ノ城築城の背景をわかりやすく解説された。桃太郎が岡山起源ではないかもしれない、あるいは伝説と遺跡の真実には乖離があったりといった話に驚く聴講生もいたようである。



5 考古学体験講座

～勾玉の首飾り～

日 時 令和2年2月20日(木)

講 師 内田智美(倉敷埋蔵文化財センター)

対 象 一般

参加者 12人

これまで行ってきた勾玉づくりでは、加工しやすい高麗石のみを使用してきたが、今回は高麗石と同等のピンクと黒の滑石を追加して3種類の石で実施した。作り方は3種類の石の中から1つ選び、平面を勾玉の形に整形、頭の部分にヒモを通す穴をキリである。

角を落とした後に、3種の耐水ペーパーで表面を磨いていく。仕上げはやわらかい布で艶々になるまで磨き上げる。最後に穴にヒモを通して、糸端は長さが調整できる『とめ結び』をして完成させた。



IV 調査事業報告

令和元年度調査一覧表

No.	遺跡名	該当地	調査原因	区別	調査期間	調査結果
1	岸本貝塚	玉島道口	道路改修工事	立会	19.04.03	遺物・遺構なし
2	上東遺跡	上東	個人住宅建築工事	タ	19.04.09	タ
3	菅生小学校裏山遺跡	西坂	宅地造成工事	確認	19.04.16	タ
4	上東遺跡	上東	宅地造成工事	立会	19.04.16	タ
5	上東遺跡	上東	宅地造成工事	確認	19.04.16～19.04.17	弥生土器片
6	長尾神社南遺跡	玉島長尾	個人住宅建築工事	立会	19.04.17	遺物・遺構なし
7	釜屋の上遺跡	玉島黒崎	道路改良工事	タ	19.05.10	タ
8	金浜上遺跡	児島塩生	電柱新設工事	タ	19.05.14	タ
9	涼松貝塚	船穂町船穂	電柱新設工事	タ	19.05.17	タ
10	平田城の内城跡	平田	宅地造成工事	タ	19.05.22	タ
11	船元貝塚	粒江	個人住宅建築工事	確認	19.06.04	土師質土器片
12	塩生遺跡	児島塩生	資材置場建設工事	タ	19.06.04～19.06.05	ピット・製塙土器
13	上東遺跡	上東	電柱新設工事	立会	19.06.08	遺物・遺構なし
14	土師谷遺跡	真備町箭田	個人住宅建築工事	タ	19.06.13	タ
15	馬場遺跡	真備町岡田	個人住宅建築工事	タ	19.06.19	タ
16	船元貝塚	粒江	個人住宅建築工事	タ	19.06.22 19.06.25 19.08.16	タ
17	上東遺跡	上東	長屋住宅建築工事	確認	19.07.23	弥生土器・土坑
18	塩生遺跡	児島塩生	作業場建設工事	タ	19.07.30	遺物・遺構なし
19	通生遺跡	児島通生	個人住宅建築工事	立会	19.08.05	タ
20	庄城跡	上東	個人住宅建築工事	タ	19.08.06	タ
21	上東遺跡・庄城跡	上東	個人住宅建築工事	タ	19.08.06	タ
22	上東遺跡	上東	個人住宅建築工事	タ	19.08.07	タ
23	上東遺跡	上東	ガス管理設工事	タ	19.08.20	タ
24	上東遺跡	上東	長屋住宅建築工事	タ	19.08.23	弥生土器・須恵器片
25	新熊野山遺跡	林	個人住宅建築工事	タ	19.09.03	遺物・遺構なし
26	浜町遺跡	浜町2丁目	個人住宅建築工事	タ	19.09.07	タ
27	坂根遺跡	真備町尾崎	電柱接地樁新設工事	タ	19.09.13	タ
28	蓮池尻遺跡	真備町妹	電柱接地樁新設工事	タ	19.09.13	タ
29	小原南遺跡	玉島黒崎	客殿・庫裏改築工事	タ	19.09.18	タ
30	別所遺跡	真備町市場	個人住宅建築工事	確認	19.09.25	弥生土器・中世土器

No.	遺跡名	該当地	調査原因	区別	調査期間	調査結果
31	上東遺跡	上東	個人住宅建築工事	立会	19.09.26	遺物・遺構なし
32	本太城跡	児島塙生	ボーリング調査	タ	19.09.27 19.10.08 19.10.16	タ
33	小原南遺跡	玉島黒崎	客殿・庫裏改築工事	確認	19.10.01	タ
34	古屋敷遺跡	真備町辻田	個人住宅建築工事	立会	19.10.16	タ
35	別所遺跡	真備町市場	個人住宅建築工事	タ	19.10.18 19.12.04	タ
36	上東遺跡	上東	宅地造成工事	確認	19.10.23	タ
37	上東遺跡	上東	個人住宅建築工事	立会	19.10.24	タ
38	船元貝塚	粒江	個人住宅建築工事	タ	19.11.08	土師質土器片
39	水江遺跡	水江	宅地造成工事	確認	19.11.12	遺物・遺構なし
40	中津貝塚	玉島黒崎	範囲確認調査	範囲確認	19.11.12～ 20.02.19	貝層・人骨・石器 縄文土器
41	浜町遺跡	浜町2丁目	個人住宅建築工事	立会	19.11.21 19.12.05	遺物・遺構なし
42	下山田遺跡	林	個人住宅建築工事	タ	19.12.06	タ
43	小原南遺跡	玉島黒崎	客殿・庫裏改築工事	タ	19.12.10	タ
44	浜町遺跡	浜町2丁目	個人住宅建築工事	タ	19.12.27 20.01.09 20.01.15	タ
45	平松城跡	下庄	電柱建替工事	タ	20.01.08	タ
46	上東遺跡	上東	個人住宅建築工事	タ	20.01.09	タ
47	松島城跡	松島	学生寮解体工事	タ	20.01.15	タ
48	蓮池尻遺跡	真備町妹	電柱接地桿新設工事	タ	20.01.16	タ
49	上東遺跡	上東	ガス埋設工事	タ	20.01.22	タ
50	上東遺跡	上東	電柱接地桿新設工事	タ	20.01.23	タ
51	土師谷遺跡	真備町箭田	個人住宅建築工事	タ	20.01.29	タ
52	稗田土井ノ鼻城跡	児島稗田町	電柱接地桿新設工事	タ	20.01.30	タ
53	柿ノ木遺跡	串田	共同住宅建替工事	確認	20.02.04	ピット（中世）
54	上東遺跡	上東	個人住宅建築工事	立会	20.02.19	遺物・遺構なし
55	古屋敷遺跡	真備町辻田	個人住宅建築工事	タ	20.02.26	タ
56	酒津遺跡	酒津	笠井堰補修工事	タ	20.02.27	タ
57	柿ノ木遺跡	串田	共同住宅建替工事	タ	20.03.04	タ
58	瀬戸2号墳	真備町尾崎	墳丘測量調査	測量	20.03.12	測量図作成
59	大正池遺跡	林	電柱接地桿新設工事	立会	20.03.13	遺物・遺構なし
60	宮の鼻遺跡	児島通生	電柱新設工事	タ	20.03.14	タ
61	下津井城跡	下津井	擬木柵設置工事	タ	20.03.18	タ
62	下庄遺跡	下庄	ガス埋設工事	タ	20.03.24	タ
63	塙生遺跡	児島塙生	電柱新設工事	タ	20.03.26	タ



調査地点位置図 (S=1/100,000)

ふなもと
船元貝塚確認調査報告 (一覧表 No.11)

調査位置 粟江字船元2105番1外

調査原因 個人住宅建築工事 調査面積 4m²

調査期間 19.06.04

調査担当 小野・藤原

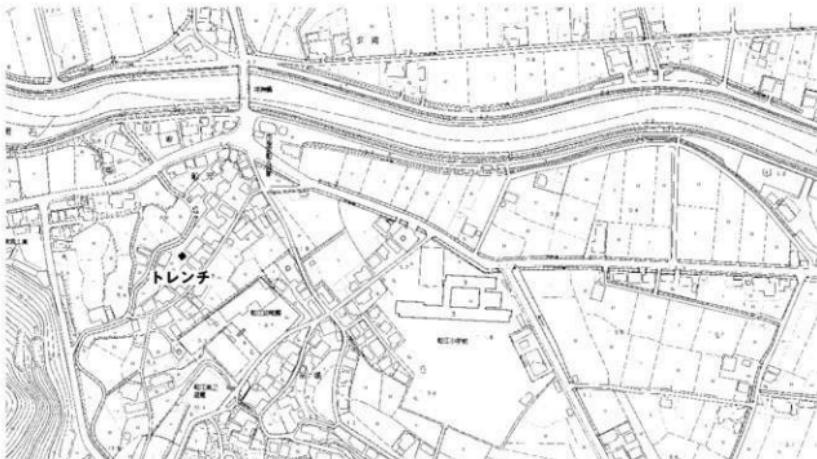
調査地の概要 船元貝塚は児島の北岸に位置する縄文貝塚群に属し、縄文時代中期前半の船元式土器の標識遺跡として知られる。大正年間に発掘調査が行われ、十数体の縄文人骨が出土しており、遺物の一部は京都大学に保管されている。なお、1996年度に今回の開発地の南側を通る市道鰯江17号線の道路改良工事に伴って立会調査を行なったが、遺物や遺構などは確認されていない。

調査の概要 調査は該当地に2×2mのトレンチ1か所を設定し、土層観察を中心実施した。

厚さ20~30cmの耕作土(黄灰色粘質土)の下に、厚さ40cmほどの混貝土層(灰黄色粘質土)が確認された。含まれる貝はそのほとんどが2cm未満のヤマトシジミであり、わずかにハイガイやハマグリが存在するが、いずれも3cm程度の小さなものである。遺物としては、少量の土師質土器や須恵器が含まれていた。土師質土器は小片で、中世以降のものと考えられる。混貝土層の下は、黄灰色粘質土、灰白色砂質土と続くが、いずれも硬くしまった均質な土で、遺物は含まれていない。

今回確認された混貝土層は、出土遺物から中世以降のものと考えられる。さらに、ヤマトシジミが主体でハイガイやハマグリがほとんどないことや、出土した貝殻の中には茶色の色素を残したもののが認められることも時期を考える材料となる。連島(かつての孤島で、現在は倉敷市連島町の丘陵部)の北岸に分布する中世貝塚群は鎌倉から室町時代のものとされているが、ハマグリ・ハイガイが主体で、貝の大きさも5cm以上のものが多く含まれる。これらを勘案すると、混貝土層が形成された時期は、周辺水域の淡水化が進んだ近世初頭頃まで降る可能性が考えられる。

(小野)



トレンチ位置図 (S=1/5,000)

しおなす
塩生遺跡確認調査報告 (一覧表 No.12)

調査位置 児島塩生字浜756番5外

調査原因 資材置場建設工事 調査面積 8m²

調査期間 19.06.04～19.06.05 調査担当 小野・藤原

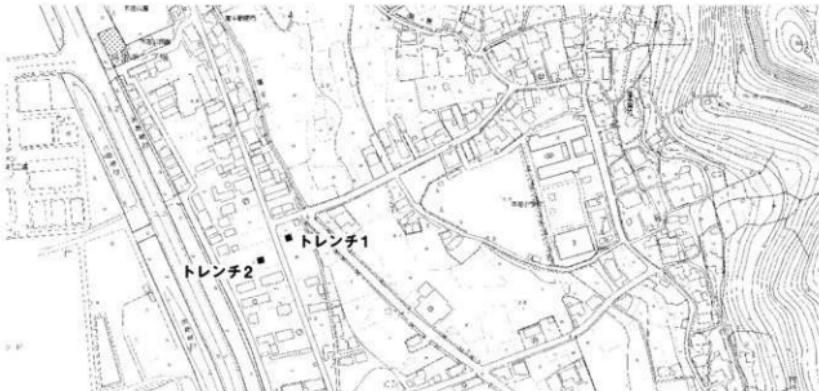
遺跡の概要 塩生遺跡は、旧海岸に形成された砂州上に立地している。かつて水島灘に面したこの地区には、白砂青松の浜辺が広がり、半農半漁の生活が営まれていたが、昭和30年代に水島工業地帯(C地区)が整備されると周辺をとりまく環境は大きく変化した。塩生遺跡は、古墳時代後期の師楽式製塩土器が出土する製塩遺跡としてよく知られ、中世の製塩遺構である炉跡や底に粘土を貼った円形土坑も発見されている。また、弥生時代前期の壺形土器も出土しており、当該期の集落が存在する可能性もある。

調査の概要 今回の調査地の現況は荒蕪地である。開発予定区域に2m×2mのトレンチを2か所設定して調査を実施した。

東側に設定したトレンチ1では、表土を除去すると、古墳時代後期の製塩土器、土師器、須恵器等の遺物を包含する褐灰色粗砂があらわされた。この層には製塩作業で生じた炭化物が含まれていると推測される。その下には遺物を含まない明黄褐色粗砂がみられる。

西側に設定したトレンチ2では、表土を除去すると、土坑が2基検出された。これらの遺構は、暗灰黄色砂質土と明黄褐色粗砂を掘り抜いており、検出面での直径は50cm、深さは50cm程度である。埋土は灰黄褐色砂質土を基調とし、底近くに灰色微砂が薄く堆積している。2基の土坑からは古墳時代後期の製塩土器、土師器等の土器片が出土しており、灰黄褐色砂質土層に含まれる遺物の密度はトレンチ1の褐灰色粗砂層よりも濃厚である。

以上のように、今回の調査区では古墳時代後期の製塩に係わる遺物包含層、遺構が確認された。上面は削平を受けているが、後世の攪乱を免れて遺跡が残されていると考えられる。 (小野)



トレンチ位置図 (S=1/5,000)

上東遺跡確認調査報告 (一覧表 No.17)

調査位置 上東字才ノ後772番外

調査原因 長屋住宅建築工事 調査面積 8m²

調査期間 19.07.23

調査担当 鍾谷・藤原

遺跡の概要 上東遺跡は倉敷市の北東端を流れる足守川の西岸に位置する集落跡である。岡山県教育委員会による山陽新幹線や都市計画道路建設に伴う発掘調査では、弥生時代後期を中心とする数多くの堅穴式住居や井戸をはじめ、製塩炉や船着場の跡なども検出されている。今回の調査対象地は倉敷市庄公民館の東約120m、住宅地に取り囲まれるようにして残された水田である。2007年すぐにすぐ西側で宅地造成に伴う確認調査を実施した際には、弥生後期の土坑と基盤層を確認しており、また2017年に北側の隣接地で集合住宅建設に伴う確認調査を実施した際には、弥生後期のピットや中世の土坑を検出している。

調査の概要 調査は該当地に2×2mのトレチ2か所を設定し、土層観察を中心に実施した。

トレチ1は調査地の北部に設定した。厚さ20cm程の水田耕作土の下に、厚さ10cm程の床土があり、その下が基盤層(灰黄色粘質土)となっている。遺構としては基盤層の上面で土坑1基を検出した。北側の壁に係って検出されたので、平面形・規模は不明であり、深さも湧水のため確認できなかった。遺物としては、土坑内埋土から弥生後期の壺や瓶などを検出している。

調査地の南部に設定したトレチ2では、厚さ20cm程の水田耕作土の下はすぐに基盤層(灰黄色粘質土)となっていた。ピットらしき遺構を検出したが、湧水のため詳細を確認できなかった。

今回の調査ではトレチ1から弥生時代後期の土坑を検出し、トレチ2でも遺構の存在を確認した。周辺での調査状況と併せてこの付近まで弥生時代の遺跡が広がっていたことが確認された。また、遺構の検出された土層もしっかりした基盤層であることから、安定した微高地が存在したことが推定される。 (藤原)



トレチ1土坑検出状況（南から）



トレチ位置図 (S=1/5,000)

べつしょ
別所遺跡確認調査報告 (一覧表 No.30)

調査位置 真備町市場字古天神3366

調査原因 個人住宅建築工事 調査面積 4m²

調査期間 19.09.25

調査担当 小野・藤原

遺跡の概要 遺跡は倉敷市真備町市場から総社市新本へ抜ける県道280号線から少し北に入った谷間に位置している。岡山県教育委員会が実施した分布調査において、別所集落周辺の畑地で須恵器や土師器が採取され、古墳時代の遺跡として記載されている。また、遺跡の北から西にかけての尾根上には古墳時代後期の横穴式石室が分布し、正蓮寺古墳群を形成している。

調査の概要 調査は該当地に2×2mのトレーナー1か所を設定し、土層観察を中心に実施した。

トレーナーは該当地のはば中央に設定した。厚さ10cm程の造成土の下に、花崗岩バイラン土が堆積している。この花崗岩バイラン土は3層に分層でき、上層（黄褐色土）では遺物は検出されなかったが、部分的に黒ずんでおり、古い造成土の可能性も考えられる。中層（にぶい黄色土）と下層（灰色土）は南西に向かって下がっている。これらは北西から下ってくる谷地形に沿ったものと考えられ、自然堆積層と推定される。また、中層（にぶい黄色土）からは中世のものと考えられる土器細片が少量検出され、さらに下層（灰色土）からはサヌカイト剥片1点と中世土器片が出土した。サヌカイト剥片は形態や風化の度合い等から弥生時代のものと推定される。花崗岩バイラン土の下は硬くしまった無遺物層（にぶい黄褐色土）であった。なお、花崗岩バイラン土上面から掘削された土坑1基も検出されたが、埋土に磁器片などが含まれており、近代以降の新しいものと考えられる。

今回の調査では弥生時代と中世の遺物を含む包含層が確認された。ただし、その遺物、特に土器片は細片化・摩耗が著しく、本来はやや高い場所にあった遺跡から流されて堆積したものであることが推定される。

(藤原)



トレーナー位置図 (S=1/5,000)

柿ノ木遺跡確認調査報告 (一覧表 No.53)

調査位置 串田字北平田310番1外

調査原因 共同住宅建設工事 調査面積 4m²

調査期間 20.02.04

調査担当 小野

遺跡の概要 柿ノ木遺跡は、児島が瀬戸内海にとり畳まれた時代には、島の北部海岸に位置した臨海性の遺跡である。当時、郷内平野にまで海水が入り込んでおり、その入江を東に臨む山裾に遺跡は立地している。縄文時代から中世の散布地として周知されており、周辺の山裾には新熊野山遺跡や城山東麓中世墓群など中世を中心とした遺跡が多く分布する。

調査の概要 今回の調査地の現況は宅地である。開発予定区域に2m×2mのトレーナチを1か所設定して調査を実施した。

トレーナチ1の西壁における断面観察によると、厚さ20~30cmの造成土の下に、黄褐色土に灰色粘質土が混じる土層がみられ、その下には黒褐色土に灰色粘質土が混じる層が続く。これらの層から遺物は出土しておらず、自然堆積層と考えられる。遺構としては、トレーナチの東寄りでピット3基(P1、P2、P3)が確認された。P1の直径は20~30cm程度で、埋土の褐灰色土には炭粒が含まれる。この層から中世の土師器碗が出土した。穴の底あたりには掌大の石があり、柱穴に埋め込まれた礎石の可能性がある。時期は鎌倉時代~室町時代前半期と考えられる。

以上のように、今回の調査地では、造成土の直下から中世の遺構が確認された。以前の宅地化によって上層は削平を受けており、遺構の下部だけが残存している状況である。
(小野)



トレーナチ位置図 (S=1/5,000)

V 寄贈図書一覧 (2019.4.1 ~ 2020.3.31)

北海道

苦小牧市埋蔵文化財調査センター
斜里町教育委員会

宮城県

多賀城市埋蔵文化財調査センター
松島町教育委員会

山形県

東北芸術工科大学芸術学部歴史遺産学科

茨城県

筑波大学歴史・人類学専攻

千葉県

千葉市埋蔵文化財調査センター
(公財)千葉市教育振興財團
国立歴史民俗博物館

東京都

宮内庁書陵部
文化庁
早稲田大学考古学会
国学院大学文学部考古学研究室
青山学院大学文学部史学科研究室

神奈川県

横浜市教育委員会

富山県

小矢都市教育委員会
射水市教育委員会

石川県

能登町教育委員会

長野県

松本市教育委員会

長野県立歴史館

静岡県

静岡県埋蔵文化財センター

愛知県

南山大学人類学博物館
豊田市郷土資料館

三重県

松阪市文化財センター
鈴鹿市考古博物館

滋賀県

守山市立埋蔵文化財センター
東近江市埋蔵文化財センター
(公財)滋賀県文化財保護協会

市内遺跡発掘調査等事業報告書2

チャシコツ岬上遺跡

多賀城市埋蔵文化財調査センター年報- 平成30年度 -

銭神 B 遺跡ほか

歴史遺産研究 第13号

筑波大学 先史学・考古学研究第30号

千葉市古山遺跡(第42次)、千葉市馬場遺跡(第2次)、千葉市大北遺跡

環状石器巣、千葉市山之越第1遺跡、千葉市種ヶ谷津遺跡(第5次)

再考!繩文と弥生、国立歴史民俗博物館研究報告 第214集・第216集~第218集、令和元(2019)年度 国立歴史民俗博物館 要覧

書陵部紀要第70号・第70号(陵墓篇)

地方における文化行政の状況について(平成29年度)

古代第143号~第145号

居家以岩陰遺跡II

青山史学 第三十七号

東寺尾中台二本木貝塚 C 地点

芹川遺跡発掘調査報告書

射水市内遺跡発掘調査報告11、赤田 I 遺跡発掘調査報告(2)、沖塚原東B 遺跡
発掘調査報告

松波城跡発掘調査報告書

岡田田中遺跡・第2次発掘調査報告書・、松本城下町跡本町 第8次発掘調査報告書
、松本城下町跡 本町第8次発掘調査概報、針塙古墳・発掘調査・保存整備報告書¹、川西開田遺跡III・IV、中山古墳群・鋸形原遺跡・不動沢古窯址、三間沢
川左岸遺跡

長野県立歴史館たより vol.99~ vol.102

ふじのくに考古通信 Vol.17・Vol.18

南山大学人類学博物館紀要第38号

大悲殿經塚、今朝平遺跡、平成29年度市内遺跡発掘調査事業概要報告書、寺部
遺跡IX、花本遺跡-17A・B区²、豊田市郷土資料館だより No.104~ No.106

平成29年度年報、新々田遺跡発掘調査報告

鈴鹿市考古博物館年報第20号、西ノ岡 B 遺跡発掘調査報告書、伊勢国府跡21

守山市文化財調査報告書 平成28年度国庫補助対象遺跡発掘調査報告書

東近江市埋蔵文化財調査報告書第35集・第36集

紀要 第32号、おうみ文化財通信 Vol.39~ Vol.42、「お墓からみた多賀の歴史」

(公財) 栗東市体育協会	レトロ・レトロの展覧会2019-夏の特別陳列 手原遺跡発掘調査報告書 平成27年度3次調査、蜂屋遺跡発掘調査報告書 平成29年度1次調査、小柿遺跡発掘調査報告書 平成29年度1次調査、純遺跡発掘調査報告書 平成29年度1次調査
(公財) 栗東市スポーツ協会	はっくつ2018-栗東市話題の発掘調査-、野尻・下鈎遺跡発掘調査報告書 平成28年度1次調査、高野遺跡発掘調査報告書 平成25年度2次調査、高野遺跡 平成26年度1次調査、下鈎東遺跡 平成26年度2次調査、岩畠遺跡 平成26年度1次調査、純遺跡発掘調査報告書 平成30年度1次調査、中沢遺跡 平成30年度1次調査、岩畠遺跡 平成30年度1次調査、土鈎遺跡 令和元年度1次調査、野尻遺跡発掘調査報告書 平成28年度2次調査、狐塚遺跡 令和元年度1次調査、栗東市埋蔵文化財調査報告 2017(平成29)年度年報、栗東市埋蔵文化財調査報告 2018(平成30)年度年報、古代銭貨2 8~9世紀、はっくつ2019-栗東市話題の発掘調査-
滋賀県教育委員会	滋賀県内遺跡発掘調査報告書、比江遺跡・堂ノ後遺跡
大津市教育委員会	中畑田遺跡発掘調査報告書、穴太遺跡(南川原地区)発掘調査報告書、中畑田遺跡発掘調査報告書、滋賀里遺跡(仲才地区)発掘調査報告書、穴太遺跡(西柳地区)発掘調査報告書、滋賀里遺跡(南生水地区)発掘調査報告書
野洲市教育委員会	平成30年度野洲市埋蔵文化財調査概要報告書、永原御殿跡総合調査報告書、令和元年度野洲市内遺跡発掘調査年報
高島市教育委員会	平ノ前遺跡、北仰山西道遺跡発掘調査報告書、南畠古墳群・下平古墳群発掘調査報告書
滋賀県立安土城考古博物館	おおてみち第107号~第110号、水谷隆信収集資料図録
滋賀県立大学人間文化学部	人間文化47号・48号
京都府	京都府埋蔵文化財情報第136号、もっと知りたい京都の遺跡第5号・第6号
(公財) 京都府埋蔵文化財調査研究センター	北山遺跡 中海道遺跡、久々相遺跡、年報 都城31
(公財) 向日市埋蔵文化財センター	京都市内遺跡発掘調査報告 平成30年度、京都市内遺跡試掘調査報告 平成30年度、京都市内遺跡詳細分布調査報告 平成30年度
京都市文化芸術都市推進室	南丹市立文化博物館だより第15号、岩崎革也宛書簡集Ⅱ、中嶋政樹「水没地域中・天若の記録写真」、江戸時代のくらし、芦生の森~森の魅力を探る~、園部藩の歴史と文化
南丹市立文化博物館	国宝 二王門 京都・綾部市・光明寺
綾部市資料館	史跡旧二条離宮(二条城)、平安宮跡・長岡京左京三条四坊六町跡、大蔵遺跡・下久世構跡、史跡・名勝 高台寺庭園、北野庵寺・北野遺跡、周山庵寺・平安京右京六条一坊十一・十四町跡、植物園北遺跡、平安京右京一条二坊十六町跡、平安京右京七条一坊十二町跡、平安京右京二条二坊十二町跡、西ノ京遺跡、平安京左京一条四坊十五町跡・公家町遺跡、洛史 研究紀要 第12号
(公財) 京都市埋蔵文化財研究所	京都橘大学大学院研究論集 第17号、京都橘大学 歴史遺産調査報告2018、鹿谷古墳の研究
京都橘大学	史跡圓鶴山古墳 第1・第2石櫛の現状と整備方針、安満遺跡・平成28年度確認調査速報、高槻市文化財年報 平成29年度、高槻市文化財年報 平成28年度、高槻市文化財年報 平成26年度、嶋上遺跡群43
京都橘大学	泉南市遺跡群発掘調査報告書36
高槻市立埋蔵文化財センター	百舌鳥最後の大王墓を探る -ここまでわかるニサンザイ古墳-、平成30年度国庫補助事業発掘調査報告書、堺環濠都市遺跡(SKT1221)発掘調査概要報告、堺環濠都市遺跡(SKT1212)発掘調査概要報告、堺環濠都市遺跡(SKT1220)発掘調査概要報告、向泉寺遺跡発掘調査概要報告-KTA-4・堺区桜元町5丁-、百舌鳥古墳群の調査13、堺の文化財 百舌鳥古墳群 第8版
堺市教育委員会	中田遺跡 第57次調査、I 恩智遺跡(第47次調査) II 東弓削遺跡(第32次調査)
(公財) 八尾市文化財調査研究会	

豊中市教育委員会	III東弓削遺跡(第34次調査)、I 薬光寺跡(第2～6次調査) II郡川遺跡(第32次調査)、平成30年度(公財)八尾市文化財調査研究会事業報告、ぶらり八尾 考古歴史散歩・地下に残された八尾の歴史を歩く - (西部・中央部編)
枚方市教育委員会	文化財ニュース豊中 No.40、穂積遺跡第43次発掘調査報告書、豊中市埋蔵文化財発掘調査概要 - 平成30年度(2018年度) -
羽曳野市教育委員会	枚方市埋蔵文化財発掘調査概要2018 古市遺跡群X L、羽曳野市内遺跡調査報告書 - 平成28年度 - 、文化財保護のてびき、羽曳野市文化財分布図
富田林市教育委員会	喜志西遺跡、中野北遺跡、平成30年度 富田林市内遺跡群発掘調査報告書
泉佐野市教育委員会	平成30年度泉佐野市埋蔵文化財発掘調査概要、泉佐野市埋蔵文化財発掘調査概要第87号、第88号
交野市教育委員会	平成30年度交野市埋蔵文化財発掘調査概要
池田市教育委員会	池田市埋蔵文化財発掘調査概報 2017年度・2018年度
吹田市教育委員会	平成30(2018)年度 埋蔵文化財緊急発掘調査概報
四條畷市教育委員会	雁屋遺跡発掘調査報告書、四條畷市文化財調査年報第6号、飯盛城跡総合調査報告書
大阪府立近つ飛鳥博物館	寛弘寺古墳群を考える、博物館だより - アスカディア・古墳の森 vol.50・vol.51 船報22、百舌鳥・古市古墳群と土師氏、ヤマト王権とその拠点・政治拠点と経済拠点、歴史発掘おおさか2019
大阪府立近づ飛鳥博物館	博物館だより No.77～No.81、音楽家 貴志康一 生誕110年～吹田に生まれた若き天才～、館報19、大塙平八郎展
吹田市立博物館	樹木年輪と古代の気候変動、大阪府立狭山池博物館研究報告10
大阪府立狭山池博物館	大阪歴史博物館年報 平成30年度、なにわ歴博カレンダー No.72
大阪歴史博物館	歴史文化研究第19号、志学台考古第19号
兵庫県	
姫路市埋蔵文化財センター	
神戸市教育委員会	姫路城城下町跡 - 姫路城跡第308次・第315次発掘調査報告書 - 、辻井遺跡 - 第39次発掘調査報告書 - 、姫路城城下町跡 - 姫路城跡第393次発掘調査報告書 - 、姫路城城下町跡 - 姫路城跡第394次発掘調査報告書 - 、書写構江遺跡(坂本城跡第21次発掘調査報告書)、豆田遺跡発掘調査報告書、辻井遺跡 - 第41次発掘調査報告書 - 、池ノ下遺跡発掘調査報告書、姫路城城下町跡 - 姫路城跡第399次発掘調査報告書 - 、姫路城城下町跡 - 姫路城跡第403次発掘調査報告書 - 、播磨国分寺跡 - 第26次発掘調査報告書 - 、姫路城城下町跡 - 姫路城跡第411次発掘調査報告書 - 、西国橋・福中橋文化財調査報告書 平成28年度 神戸市埋蔵文化財年報、本庄村遺跡第10次埋蔵文化財発掘調査報告書、上沢遺跡発掘調査報告書V、土器のうつろい～時間と空間による変化～、神戸はかつて焼き物の里だった～トウパンケイスエキの世界～、昭和のくらし・昔のくらし13、海を見つめ～コウベの海と考古学～
伊丹市教育委員会	伊丹市埋蔵文化財マップ、有岡城跡発掘調査報告書XXIII
芦屋市教育委員会	平成10年度国庫補助事業(1) 芦屋市内遺跡発掘調査概要報告書、小阪家住宅発掘調査報告書
赤穂市教育委員会	名勝旧赤穂城庭園二之丸庭園整備概要報告書3、放龟山古墳群調査報告書、有年考古第7号
宝塚市教育委員会	宝塚市内遺跡発掘調査概報
尼崎市教育委員会	尼崎市埋蔵文化財調査年報 平成23年度(1)、尼崎市内遺跡 発掘調査等特別史跡姫路城跡石垣修理工事報告書(10)
姫路市立城郭研究室	溝之口遺跡発掘調査報告書Ⅲ、中道子山城跡発掘調査報告書Ⅱ、溝之口遺跡発掘調査報告書Ⅳ・美乃利遺跡発掘調査報告書Ⅰ、加古川市文化財年報第1号～第3号、石町中世墓発掘調査報告書
加古川市教育委員会	平成29年度川西市発掘調査報告 高砂町遺跡II
川西市教育委員会	
高砂市教育委員会	

福崎町教育委員会	埋蔵文化財調査報告書、北野散布地（第5次）・西田原上野田遺跡（第4次）・西光寺中遺跡（第1次）
佐用町教育委員会	平成29年度埋蔵文化財調査年報
多可町教育委員会	奥中・桜木遺跡
兵庫県立考古博物館	兵庫県立考古博物館 N E W S vol.24・vol.25、神屋町遺跡、豆腐町遺跡Ⅲ・駅前町遺跡、稻塚3号窯跡、大円道向遺跡、宮前鉱山跡、尼ヶ宮古墳群、広瀬古墳群、津万遺跡群3
(公財)兵庫県まちづくり技術センター	ひょうごの遺跡第100号～第102号
播磨町郷土資料館	今里傳兵衛と新井用水、館報30
大手前大学史学研究所	神戸製鋼所神戸製鉄所第3高炉調査報告書、大手前大学史学研究所紀要 第13号 関西窯業の近代II
奈良県	
奈良文化財研究所	埋蔵文化財ニュース No.174～No.177
田原本町教育委員会	たわらもと2019発掘速報展、唐子・謙遺跡考古資料目録IV
斑鳩町教育委員会	史跡中宮寺跡保存整備事業報告書、斑鳩文化財センター年報 第8号、法隆寺食封で結ばれた文化交流展、史跡藤ノ木古墳と大和の家形石棺、国指定史跡 中宮寺跡
帝塚山大学考古学研究所	帝塚山大学考古学研究所研究報告XXI
桜井市立埋蔵文化財センター	50cm下の桜井、王權の地、桜井、太田微高地の人びとのくらし
桜井市纏向学研究センター	纏向学研究第7号、纏向考古学通信 Vol.13、纏向学研究センター年報 第7号
(公財)桜井市文化財協会	桜井市内遺跡発掘調査報告書-2014年度-
奈良大学文学部考古学研究室	甲塚古墳発掘調査報告書 I
奈良大学文学部文化財学科	文化財学報 第三十七集・第三十八集
天理大学考古学・民俗学研究室	古事 第23冊
天理大学附属天理参考館	天理参考館報第32号
和歌山県	
(公財)和歌山県文化財センター	かつらぎ町 窪・萩原遺跡、地宝のひびき・和歌山県内文化財調査報告会・報告資料集、東城跡、川辺遺跡、吉礼Ⅲ遺跡、公益財団法人和歌山県文化財センター年報2018、藤並地区遺跡、公益財団法人和歌山県文化財センター設立30周年記念誌、歩いて知るきのくに歴史探訪 和歌山城とその周辺の文化財を巡る、シンポジウム 南海道の原風景
有田川町教育委員会	令和元年度有田川町埋蔵文化財調査年報
広川町教育委員会	上野中II遺跡発掘調査報告書
鳥取県	
鳥取県埋蔵文化財センター	調査研究紀要10、青谷上寺地遺跡発掘調査研究年報2017
(公財)鳥取市文化財団	広西大谷遺跡
倉吉市教育委員会	津原遺跡群発掘調査報告書、倉吉市内遺跡分布調査報告書20
(一財)米子市文化財団	史跡米子城跡整備基本計画、尾高城跡III、石井要害跡I、石井要害跡II、埋蔵文化財調査室年報6、米子市埋蔵文化財センター・米子市福市考古資料館年報第8号、米子平野の考古学資料 別所1号墳・2号墳、米子市内遺跡発掘調査報告書
鳥取県地域づくり推進部	青谷上寺地遺跡発掘調査研究年報2018
大山町教育委員会	町内遺跡発掘調査報告書XⅠ、長野城跡発掘調査報告書(平成29年度実施分)
八頭町教育委員会	平成28・29年度町内遺跡発掘調査報告書、平成29・30年度町内遺跡発掘調査報告書、郡家西向田遺跡V発掘調査報告書
北栄町教育委員会	平成30年度 町内遺跡発掘調査報告書
琴浦町教育委員会	特別史跡窟尾庵寺跡I
鳥取県立むきばんだん史跡公園	妻木晩田遺跡発掘調査研究年報2018
島根県	
島根県埋蔵文化財調査センター	常楽寺柿木田古墳群、ドキ土器まいぶん No.64～No.66、平ノ前遺跡、御堂谷遺跡、

鳥根県古代文化センター	川原宮Ⅲ遺跡、尾ノ上遺跡 桜田遺跡、京田遺跡2区・中上Ⅱ遺跡・藏廻り遺跡・模板窓跡、岬口古墓・上古市遺跡 古代文化研究 第26号・第27号・隱岐產黒曜石の獲得と利用の研究、上竹矢7号墳・東百塚山古墳群・古天神古墳・安部谷古墳群調査報告書、しまねの古代文化 第25号・志賀奥遺跡出土青銅器群の研究(補訂)、石見の中世領主の盛衰と東アジア海城世界、隠岐の祭礼と芸能に関する研究、国家形成期の首長権と地域社会構造、古墳時代の玉類の研究
(公財)松江市スポーツ振興財团	埋蔵文化財課年報(22) 平成29年度、堤ノ上遺跡
浜田市教育委員会	平成30年度 浜田市内遺跡発掘調査報告書
出雲市役所	白枝荒神遺跡、京田遺跡4区・高西遺跡Ⅱ、平成30年度出雲市文化財調査報告書、出雲弥生の森博物館研究紀要第7集
津和野町教育委員会	津和野城下町遺跡6 高崎龜井家屋敷跡、名勝旧堀氏庭園畠追迫病院保存修理工事報告書、津和野町内遺跡発掘調査報告書6~8、喜時雨遺跡発掘調査報告書(3次調査)
鳥根大学研究・学術情報機構総合博物館	寿昌寺西遺跡第1次調査
鳥根大学法文学部考古学研究室	伯耆国分寺古墳の研究
鳥根県立八雲立つ風土記の丘資料館	八雲立つ風土記の丘 No.224・No.225
岡山県	
岡山県古代吉備文化財センター	所轄吉備第67号、神明遺跡 刑部遺跡、朱千駄古墳・池新田遺跡・新屋敷遺跡、馬場崎遺跡、岡山県中世城館跡総合調査報告書
津山弥生の里文化財センター	津山弥生の里第26号、津山市内遺跡調査報告書 平成25~29年度、津山城だよりNo.23、史跡津山城跡
岡山市埋蔵文化財センター	岡山市埋蔵文化財センター研究紀要第11号、岡山市埋蔵文化財センター年報18 金蔵山古墳・津高団地遺跡群・弥生時代編・
井原市文化財センター	井原市文化財センター「古代まほろば館」年報10・11
岡山県教育委員会	埋蔵文化財関係統計資料・平成30年度・、岡山市埋蔵文化財報告49、刀剣が語る古代国家誕生、『埋蔵文化財保護行政におけるデジタル技術の導入について』3) 未来の備前焼を探しに行く
備前市教育委員会	玉野の古墳・出土品は何を語る・
玉野市教育委員会	最新測量図でみる両宮山古墳・日本遺産 赤磐市、史跡備前国分寺跡 保存整備事業報告書1
赤磐市教育委員会	赤磐市埋蔵文化財調査年報28、櫛見1号墳 法正寺1号墳 八紘古墳群
経社市産業部	井原市文化財センター「古代まほろば館」年報10・11
矢掛町教育委員会	毎戸遺跡発掘調査報告
津山郷土博物館	津山松平藩町奉行日記 二十五、津山市史だより第13号・第14号、津博 No.98 ~No.100
岡山県立美術館	美術館ニュース第124号~第127号
岡山シティミュージアム	岡山びと 第13号
岡山大学文学部考古学研究室	明見彦山1号墳発掘調査報告書、鳶尾塚古墳I
岡山大学大学院社会文化科学研究科	異分野融合で見える最先端のマヤ考古学
岡山大学埋蔵文化財調査研究センター	岡山大学埋蔵文化財調査研究センター報No.60・No.61、鹿田遺跡13、岡山大学埋蔵文化財調査研究センター紀要2017
岡山理科大学 自然科学研究所	自然科学研究所研究報告第44号
岡山理科大学 地理・考古学研究室	半田山地理考古第6号・第7号、庄田工田窓跡第1次発掘調査概報、庄田工田窓跡第2次発掘調査概報
くらしき作陽大学	くらしき作陽大学博物館実習報告第9号・第10号
倉敷市歴史資料整備室	倉敷の歴史 第29号
岡山県遺跡保護調査団事務局	調査団ニュース 53号・54号
広島県	
(公財)広島県教育事業団	年報16 平成30年度、平成30年度ひろしまの遺跡2018-報告と講演・記録集、ひろしまの遺跡第122号・第123号、野原山城跡、小野寺麻寺跡

広島県教育委員会 東広島市教育委員会	平成29年度広島県内遺跡発掘調査(詳細分布調査)報告書 東ひろしまの遺跡Vol.7、友松5号遺跡発掘調査報告書、道照遺跡発掘調査報告書、東広島市内遺跡発掘調査報告書2、吹越2号遺跡発掘調査報告書、福原南遺跡発掘調査報告書、杵原6号遺跡発掘調査報告書 史跡備後国府跡保存活用計画【概要版】、史跡備後国府跡保存活用計画、府中市内遺跡18、伝吉田寺跡 大天神古墳 史跡甲立古墳整備基本計画、史跡甲立古墳・平成30年度遺構確認調査・ 中世尾道の堀、尾道市内遺跡、中世日本の海賊と城 広島大学大学院文学研究科考古学研究室紀要第10号 広島大学理蔵文化財調査研究紀要 第10号、HUM-HUM Vol.12 前長者遺跡発掘調査報告書2
山口県	
山口県埋蔵文化財センター	陶けん第32号、本郷山崎遺跡 本郷遺跡、追跡 明力遺跡 前岡河内遺跡、錢屋遺跡、山口県埋蔵文化財センター年報・平成30年度普及公開事業等の記録。 上津遺跡、長尾原遺跡 至宝しものせき・梶栗浜遺跡と弥生の墓制~、研究紀要第22号 てらこや埋文2019春号、山口大学埋蔵文化財資料館年報・平成26年度。
徳島県	
(公財)徳島県埋蔵文化財センター	真朱第12号、徳島県埋蔵文化財センター年報 Vol.29・Vol.30
香川県	
香川県埋蔵文化財センター	三殿北遺跡、香川県埋蔵文化財センター年報 平成30年度、埋蔵文化財試掘調査報告31、中又北遺跡、津森位遺跡Ⅱ、北野遺跡 錦野西遺跡、本町二丁目遺跡 香川県文化財年報 平成29年度・平成30年度 鰐来遺跡、丸龜市内遺跡発掘調査報告書第17集、郡家地頭遺跡 宗吉かわらの里展示館 年報7・8、本山寺発掘調査報告書、石舟古墳、紫雲出山遺跡 四国八十八ヶ所靈場第六十八・六十九番札所 神恵院・観音寺調査報告書第1分冊、 四国八十八ヶ所靈場第八十三番札所 一宮寺調査報告書 讃岐遍路道 大興寺道 調査報告書 満濃池名勝調査報告書 香川県立ミュージアムニュース vol.48
愛媛県	
(公財)愛媛県埋蔵文化財センター	公益財团法人愛媛県埋蔵文化財センターのあゆみ、愛比充 2018(平成30)年度年報、紀要愛媛 第15号、伊予国府 発見へ向けて
(公財)松山市文化・スポーツ振興財團	松山市埋蔵文化財調査年報31、東垣生八反地遺跡・5次調査・、松山城三之丸跡-13次・15次調査・、久米高畠遺跡-55次・56次調査。
今治市教育委員会	市内遺跡試掘確認調査報告書(平成29年度 公共事業に伴う調査)、別名ホウシボ遺跡・第2次調査・上徳大道上遺跡 国分久積遺跡、市内遺跡試掘確認調査報告書(平成29年度 個人開発に伴う調査)、史跡 能島城跡 平成15~27年度整備に伴う調査総括報告書、南日吉高堤遺跡 上徳居屋敷遺跡 史跡上黒岩岩陰遺跡保存活用計画書 愛南町内遺跡1、伊予漏路道観自在寺道地図 文京遺跡Ⅳ-1
高知県	
(公財)高知県文化財団 高知市教育委員会 高知県立歴史民俗資料館 香南市教育委員会	高知城跡北曲輪、史跡 高知城跡、高知県埋蔵文化財センター年報第28号 竹林寺、秦泉寺庵寺跡(第7次調査)、柳田遺跡 岡豈風日第105号~第108号、高知県立歴史民俗資料館年報 No.28 山下遺跡、東狭間遺跡

福岡県

福岡市埋蔵文化財センター

小郡市埋蔵文化財調査センター

久留米市埋蔵文化財センター

北九州市教育委員会

大野城市教育委員会

春日市教育委員会

朝倉市教育委員会

糸島市教育委員会

(公財)北九州市芸術文化振興財団

福岡市経済観光文化局

九州歴史資料館

福岡大学人文学部考古学研究室

佐賀県

佐賀市教育委員会

唐津市教育委員会

神埼市教育委員会

長崎県

佐世保市教育委員会

雲仙市教育委員会

福岡市埋蔵文化財センター年報第37号、考古資料の重要文化財指定とその活用
Facata VOL.116、庚寅銅大刀、掘り出された古の博多

小郡南原遺跡／小郡堂の前遺跡3、福童町遺跡14、埋蔵文化財調査報告書10、
旧松崎旅籠油屋2、干渴京ノ坪遺跡、吹上村開道跡、三沢橋道遺跡3、上岩田遺跡15、
津古牟田遺跡5、津古1号墳、寺福童開道跡2、小郡市指定有形文化財
平田家住宅改修工事報告書、寺福童開道跡1、横隈上内畠遺跡8、横隈狐塚遺跡8-9

筑後国府跡ガイド・散策マップ、安武校区の文化財マップ、筑後国府跡-1期
政庁地区、玉満松木ノ遺跡-第2・3・4次発掘調査報告、天神免遺跡-第1・
2・3次報告、白川遺跡(久留米俘虜収容所跡)-第11-17次発掘調査報告、東
東野亭焼窯跡、平成30年度久留米市内遺跡群、高三瀬遺跡-第6-8次発掘調
査報告、久留米城下町遺跡-第27次発掘調査報告、久留米城下町遺跡-第28
次発掘調査報告、久留米市文化財保護課年報vol14、久留米市埋蔵文化財調査集報XXIX
大里八反田遺跡第2・3地点、西園大畠遺跡第2地点、高尾遺跡、長野城-総括
編-

水城跡3、烟ヶ坂遺跡1、原田遺跡2、村下遺跡6、宝松遺跡1、大谷遺跡群1、横
峰遺跡3

須玖岡本遺跡6

黒川院V、朝倉市文化財年報(平成26年度)、秋月城下町遺跡第9次調査、中島
田本村屋敷遺跡

新訂版 国史跡曾根遺跡群 平原遺跡、三雲・井原遺跡X、神在横畠遺跡2・志登
尾北遺跡、国道202号今宿道路関係埋蔵文化財調査報告書I、篠原東遺跡群II、
三雲・井原遺跡X I

埋蔵文化財調査室年報35、研究紀要-第33号-、小倉城御用屋敷跡、原遺跡第3地点、
黒崎城跡28区、上長野石棺群、貫・井手ヶ本遺跡第4次調査、貫・井手ヶ本遺
跡第5次調査、鎌物師町遺跡第2地点、魚町遺跡第2地点

今津A遺跡1、大橋E遺跡8、雀居12、山王遺跡9・10、住吉神社遺跡3、那珂
79、中村町遺跡6・7、野方岩名隕2、博多162~165、箱崎57・58、比恵86・
87、麦野C遺跡9、浜浜遺跡5、弥永原9、立花寺7、元岡・桑原遺跡群32~34、
元寇防壁、史跡鴻臚館跡-総括編-、国史跡 金隈遺跡・野方遺跡 改修事業報告、
元岡・桑原遺跡群、福岡市埋蔵文化財センター年報第32号、福岡市埋蔵文化財
センター年報第37号

九徳だより No.49・No.50・臨時号、九州歴史資料館研究論集44

「新・日韓交渉の考古学・学生時代」を語る 発表要旨集

五龍神社遺跡-6・7区の調査-、佐賀市埋蔵文化財確認調査報告書-2016年度-、
津留遺跡-3区の調査-、鍋島三本木遺跡-1区の調査-、鍋島本村南遺跡-3区の調査-、
村德永遺跡12区 第2分冊、村德永遺跡12区 第1分冊、牛鶴口跡、佐賀城跡VI、
一丁田遺跡-2区の調査-、村德永遺跡-22区の調査-、見えてきた! 横文の編み
かご文化・現代につながる技と美-、横文貝塚を知る・整備・活用の可能性を探る-
史跡東名遺跡保存活用計画書

唐津市内遺跡確認調査(35)、唐津城跡(10)

市内遺跡確認調査概要報告書X II

鬼塚古墳、福井洞穴、国指定名勝 平戸領地方八奇勝(平戸八景)、きっと来〜い
! 高島

凌松遺跡・源次広野遺跡・水中道遺跡

熊本県	
熊本市観光文化交流局	熊本市埋蔵文化財調査年報第21号、上代町遺跡群Ⅱ、松山遺跡Ⅱ、松山遺跡Ⅲ、熊本市埋蔵文化財発掘調査報告集・平成30年度・第1分冊、熊本市埋蔵文化財発掘調査報告集・平成30年度・第2分冊
大分県	
大分県立埋蔵文化財センター	大分県内遺跡発掘調査概報22、大分県立埋蔵文化財センター研究紀要2、府内城三ノ丸遺跡Ⅳ、蔵山万寿寺跡、古戸遺跡、四日市遺跡2、府内城・城下町、五ヶ瀬中遺跡
中津市教育委員会	中津城跡下町遺跡12・13次調査 定留遺跡7次調査、市内遺跡試掘確認調査 中近世城館確認調査(6)長者屋敷官衙遺跡、中津市の中近世城館 資料編、市内遺跡試掘確認調査 中近世城館確認調査(7)
竹田市文化財管理センター	市内遺跡発掘調査Ⅲ、稻葉川流域遺跡群発掘調査報告書、市内遺跡発掘調査V、市内遺跡発掘調査VI、市内遺跡発掘調査Ⅶ、城下町遺跡(幡本家武家屋敷跡)、岡藩城下町遺跡群発掘調査I 市内遺跡発掘調査IX
宇佐市教育委員会	清水寺境内遺跡、市内遺跡発掘調査概報27、中屋敷遺跡
宮崎県	
宮崎県埋蔵文化財センター	青木遺跡、嫁坂遺跡Ⅱ、宮崎県埋蔵文化財センター年報第23号、小松尾遺跡、松下遺跡
宮崎市教育委員会	下北方下郷第6遺跡、北中遺跡V、松添遺跡、桶ノ口遺跡、中小路遺跡
都城市教育委員会	白山原遺跡(第4次調査)、都城跡、都城市内遺跡12、上ノ村遺跡、高城牧ノ原遺跡群
川南町教育委員会	井手ノ上村遺跡
鹿児島県	
鹿児島県立埋蔵文化財センター	埋文だより第79号～第81号
(公財)鹿児島県文化振興財團	平成31年度 要覧、～かごしまの遺跡～ 第19号～第21号
霧島市教育委員会	弥勒院跡4
鹿児島大学埋蔵文化財調査センター	鹿児島大学構内遺跡 郡元団地J・K-9・10区(理工系総合研究棟)、鹿児島大学構内遺跡(郡元団地H・I-8区)
その他	
全国公立埋蔵文化財センター連絡協議会	埋蔵文化財関係統計資料・平成30年度・、公立埋文協会報第63号
(株)岩波書店	前方後円墳の時代
(株)四門	平安京右京六条四坊七町跡・西京極遺跡、伏見城跡、平安京左京四条四坊三町跡
(株)イビソク	平安京右京四条二坊一町跡、平安京左京九条三坊八町跡・烏丸町遺跡、福原遺跡発掘調査報告書、西条土与丸二丁目1号遺跡発掘調査報告書2、平安京左京九条四坊二町跡・烏丸町遺跡
(有)バル文化財研究所	倉骨沢遺跡
(株)文化財サービス	長岡京左京一条三坊十・十一町発掘調査報告書、中久世遺跡発掘調査報告書、平安京左京二条二坊十・十五町(高陽院)跡発掘調査報告書、白河街区跡発掘調査報告書、平安京左京八条二坊五町跡発掘調査報告書、平安京左京六条二坊十一町跡・烏丸綾小路遺跡発掘調査報告書、六波羅政庁後、音羽・五条坂窟跡発掘調査報告書
(株)鳥田組	西条土与丸二丁目1号遺跡
国際文化財株式会社	平安京左京四条二坊十六町跡・本能寺城跡、平安京右京七条一坊四町跡・堂ノ口遺跡埋蔵文化財発掘調査報告書、長岡京左京二条四坊一町跡・東土川遺跡埋蔵文化財発掘調査報告書、法性寺跡埋蔵文化財発掘調査報告書、嵯峨遺跡埋蔵文化財発掘調査報告書
(株)地域文化財研究所	長岡京左京一条四坊七町跡 600次 発掘調査報告書、正覚寺跡 発掘調査報告書
問壁霞子	奈良時代・吉備中之団 母夫人と富ひめ
澤田秀実	考古学から考える災害と文化財保護
和氣誠二	つわものどもの夢の舞台へ

令和2 (2020) 年度

I 組 織

埋蔵文化財センターは、文化財保護課の一施設として、市域内の埋蔵文化財に係る業務を一括して担当している。令和2年度における埋蔵文化財センターの組織及び人員は下記のとおりとなっている。



文化財保護課	課 長	鍵谷 守秀
埋蔵文化財センター	館 長	浅野 光正
タ	主 幹	小野 雅明
タ	主 任	藤原 好二
タ	会計年度任用職員	内田 智美
タ	タ	那須 玲子
タ	タ	日下 美樹

(職名等は令和3年3月31日現在)

II 事業の概要

1 調査事業

- (1) 事前協議 Fax 等による埋蔵文化財包蔵地照会は570件と前年並みの数であった。コロナ禍のにおける経済の低迷を反映した状況はいましばらく続きそうである。開発行為指導要綱に基づく事前協議の件数は3件、墓地経営許可に関する事前協議は3件であった。このうち上東遺跡の範囲内に係る2件について文化財保護法に基づく届出が提出された。
- (2) 発掘調査 令和2年度は全面調査2件、範囲確認調査1件、確認調査6件、立会調査延べ50件を実施した。全面調査を実施した塩生遺跡では古墳時代の製塩土器堆積層および中世と推定される埋葬2基が確認された。確認調査では上東遺跡が4件を占めている。立会調査は、公共工事に伴うものが12件、民間の開発に伴うものが38件である。
- (3) 測量調査 真備町下二万に所在する内出1号墳（方墳）について、墳丘形態の確認を主目的とする地上レーザー測量調査を実施した。
- (4) 分布調査 新発見の遺跡として、真備町市場地区において古墳1基、下津井釜島において城館1か所を確認し、データを登録するとともに遺跡地図に付け加えた。また、これまで正確な所在が確認できていなかった古墳のうち、酒津地区の1基、下津井釜島の2基の位置情報を把握し、遺跡地図の修正を行った。
- (5) 整理作業 来年度以降の報告書作成に備えて、塩生遺跡出土鉄製品の保存処理を開始し、また、下津井城跡から出土した陶磁器の実測を行った。

2 教育普及事業

(1) 主催講座等 山城探訪など、延べ3回の講座等を実施。延べ参加人数45人。新型コロナ感染防止のため、春から秋にかけての講座等は全て中止となった。

講座・イベント名	実施日	内 容	参加人数
埋文エコバッグを作ろう	2/18（木）	消しゴムはんこによる模様付け	4人
山城探訪	3/3（水）	下津井城跡探訪	18人
はにわの箸置き作り (真備図書館開館記念行事)	3/14（日）	オープン陶土を用いた箸置き作り	23人

(2) 出前講座等講師派遣 古代の土笛作り等、延べ18回の派遣。延べ参加人数768人。コロナ禍のため、出前講座、特に体験型の申し込みは皆無であった。庄小学校からは修学旅行の代替としての地域学習のために、楯築遺跡案内の依頼があった。

派遣内容	開催日	依頼団体	参加人数
博物館実習（Web）	5/20（水）	倉敷芸術科学大学	30人
楯築遺跡について	10/9（金）	庄小学校	143人
楯築遺跡・ 王墓山古墳について	10/27（火）	タ	134人
ひさしやま学習	10/28（水）	庄小学校（3年生）	170人
鷺羽山の遺跡を歩く	11/6（金）	（一社）クリエイターズラウンジ	10人
倉敷市の貝塚について	11/14（土）	玉島市民交流センター	12人
倉敷の古墳	11/28（土）	タ	12人
小・中学校教員初任者研修	2/18（木）	教育センター	97人
日本遺産 樅築遺跡について	3/4（木）	庄小学校（6年生）	160人

(3) 資料の貸出

貸出期間	資料名	貸出先	使用目的	
7/15（水）～ 8/30（日）	金浜遺跡出土 製塙土器片 寒田窯跡群4号出土 須恵器甕片 拓本用具	12点 12点 一式	岡山商科大学 経営学部 学芸員課程	博物館実習の授業 で使用するため
8/1（土）～ 9/6（日）	寒田窯跡群4号出土 須恵器壺蓋 実測用具	14点 一式	岡山商科大学 経営学部 学芸員課程	博物館実習の授業 で使用するため

(4) 写真の掲載許可

許可日	資料名・数量	許可先	掲載物
7/30 (木)	王墓山古墳 現況写真 1点	出雲弥生の森博物館	開館10周年記念特別展 「出雲・上塩治築山古墳とその時代」 のパネル・パンフレットに掲載

(5) 報告書等の刊行

倉敷市埋蔵文化財発掘調査報告第18集

「中津貝塚」

A4判 本文57頁 図版18頁 300部 令和3年3月刊行

3 利用者数

展示・講座等を含めた令和2年度の利用者数は下表のとおりである。総利用者数は5,120人。コロナ禍の影響で、4月21日（火）から5月7日（木）を臨時休館としており、昨年度と比較すると約三分の一の総利用者数となった。

（令和2年度月別利用者数）

月	団体数	来館者数	講座等	利用者数計	開館日数	1日平均利用者数
4		89		89	18	5
5		112	30	142	10	14
6	2	335		335	26	13
7	2	480		480	27	18
8		373		373	26	14
9		444	3	447	26	17
10	6	968	447	1,415	27	52
11	1	401	34	435	25	17
12	1	130		130	24	5
1	2	141		141	24	6
2	1	374	101	475	24	20
3		457	201	658	26	25
合計	15団体	4,304人	816人	5,120人	283日	18人

4 寄贈資料

令和2年度には下記の考古資料の寄付を受けた。

寄贈日	寄贈者名	資料名	数量
6/17 (水)	播磨 悅子	倉本武氏採集資料（釜島採集石器類）	コンテナ1箱

III 教育普及事業報告

1 考古学体験講座

～埋文エコバッグを作ろう～

日 時 令和3年2月18日(木)
講 師 内田智美・那須玲子・日下美樹
(倉敷埋蔵文化財センター)
対 象 一般
参加者 4人

B4サイズのマチ付き布製バッグに、土器・土偶・埴輪などを彫った約30種類の消しゴムはんこから好きなものを選び、布用のスタンプインクを使ってはんこを押し、オリジナルのエコバッグを作る講座。コロナ禍でも行える講座として新たに考え、対策をして初めて実施した。はんこを押すだけという簡単な作業だが、全体のレイアウトを考えた後、はんことスタンプインクの色をどう組み合わせるかが難しく、参加者は悩んで時間をギリギリまで使って作品を作っていた。完成了した作品は、個性がよく表れたものとなっていた。



2 真備図書館開館記念行事

～はにわの箸置き作り～

日 時 令和3年3月14日(日)
講 師 日下美樹(倉敷埋蔵文化財センター)
対 象 一般
参加者 23人

平成30年7月豪雨で被災した真備図書館再開館の記念行事として実施した。午前中に3回に分けて行ったが、参加者は小学生から大人まで幅広い年齢層で、ほぼ定員いっぱいだった。オープン陶土で「踊る埴輪」をモデルにした箸置きを2個制作した。あらかじめ整形して用意しておいた胴体に、自作したパーツを付けて竹串で顔を描き、好きな装飾を付け加えて作品に仕上げた。30分という短い時間で2個の箸置きを制作するため、みんな集中して取り組んだ。作品は後日、焼成してからの引き渡しがあったが、作品の出来映えに満足し、喜んでいたようであった。



IV 調査事業報告

令和2年度調査一覧表

No.	遺跡名	該当地	調査原因	区別	調査期間	調査結果
1	才樂遺跡	日畠	個人住宅建築工事	立会	20.04.07	遺物・遺構なし
2	塙生遺跡	児島塙生	個人住宅建築工事	タ	20.04.11	タ
3	上東遺跡・庄城跡	上東	個人住宅建築工事	タ	20.04.17	タ
4	下山田遺跡	林	個人住宅建築工事	タ	20.04.27	タ
5	新熊野山遺跡	林	個人住宅建築工事	タ	20.04.27	タ
6	朝原寺跡	浅原	電柱支線新設工事	タ	20.04.28	タ
7	上東遺跡	上東	個人住宅建築工事	タ	20.04.28	タ
8	上東遺跡	上東	個人住宅建築工事	タ	20.05.14	タ
9	本太城跡	児島塙生	道路改良工事	タ	20.05.14	タ
10	上東遺跡	上東	個人住宅建築工事	タ	20.05.28	タ
11	上東遺跡	上東	宅地造成工事	確認	20.06.09	弥生土器・中世土器
12	上東遺跡	上東	個人住宅建築工事	立会	20.06.19 20.06.20	遺物・遺構なし
13	上東遺跡	上東	下水道管理設工事	タ	20.07.01	タ
14	上東遺跡	上東	個人住宅建築工事	タ	20.07.01	タ
15	一等寺下遺跡	曾原	個人住宅建築工事	確認	20.07.15	タ
16	藤ノ木遺跡	日畠	個人住宅建築工事	立会	20.07.16	タ
17	江田池窯跡群 1号・2号	矢部	道路復旧工事	タ	20.07.29	黒色粘土（灰原）
18	塙生遺跡	児島塙生	工場建築工事	全面	20.08.04～ 20.08.25	土壌幕2基・製塙土器
19	広江・浜遺跡	広江1丁目	仮設トイレ設置工事	立会	20.08.07	須恵器片・製塙土器片
20	樅ノ奥遺跡	真備町岡田	農道新設工事	タ	20.08.24	遺物・遺構なし
21	酒津遺跡	酒津	配水管改良工事	タ	20.09.08	タ
22	上の山遺跡	船穂町船穂	携帯電話基地局 建設工事	タ	20.09.16 20.09.23	タ
23	北村大下遺跡	木見	電柱接地棒新設工事	タ	20.09.18	タ
24	新熊野山遺跡	林	電柱接地棒新設工事	タ	20.09.18	タ
25	上東遺跡	上東	電柱支線取替工事	タ	20.09.18	タ
26	中津貝塚	玉島黒崎	範囲確認調査	範囲確認	20.09.29～ 20.10.20	縄文土器片
27	上東遺跡	上東	宅地造成工事	立会	20.10.01	遺物・遺構なし

No.	遺跡名	該当地	調査原因	区別	調査期間	調査結果
28	上東遺跡	上東	電柱等新設工事	立会	20.10.01	遺物・遺構なし
29	溝落遺跡	児島塙生	露天駐車場造成工事	全面	20.10.13～ 20.10.16	サスカイト剥片
30	才樂遺跡	日畠	個人住宅建築工事	立会	20.10.30	遺物・遺構なし
31	大室遺跡	下津井5丁目	道路改良工事	タ	20.11.04	タ
32	原津遺跡	西坂	個人住宅建築工事	タ	20.11.13	タ
33	勢亡遺跡	真備町下二万	道路改良工事	タ	20.11.13	タ
34	上東遺跡	上東	宅地造成工事	確認	20.11.18	溝状遺構・中世土器片
35	上東遺跡	上東	長屋住宅建築工事	タ	20.11.18	遺物・遺構なし
36	上東遺跡	上東	電柱新設工事	立会	20.11.21	タ
37	北面丸山貝塚群 第8群	連島町連島	個人住宅建築工事	タ	20.12.08	タ
38	北面丸山貝塚群 第8群	連島町連島	電柱新設工事	タ	20.12.08	タ
39	磯の森貝塚	粒江	個人住宅建築工事	タ	20.12.09	タ
40	上東遺跡	上東	下水道管理設工事	タ	20.12.19	タ
41	上東遺跡	上東	個人住宅建築工事	タ	20.12.24	タ
42	上東遺跡	上東	個人住宅建築工事	タ	20.12.25	タ
43	大室遺跡	下津井5丁目	個人住宅建築工事	タ	21.01.13	タ
44	蓮池尻遺跡	真備町妹	水道管理設工事	タ	21.01.22	タ
45	上東遺跡	上東	下水道管理設工事	タ	21.01.22	タ
46	柳ヶ坪遺跡	真備町尾崎	水路改修工事	タ	21.01.26	タ
47	才樂遺跡	日畠	個人住宅建築工事	タ	21.02.02	ピット・弥生土器片
48	上東遺跡	上東	宅地造成工事	確認	21.02.02	弥生土器
49	広田山古墳	藤戸町天城	宅地造成工事	タ	21.02.09	中世墓石
50	上東遺跡	上東	ガス管理設工事	立会	21.02.16	遺物・遺構なし
51	上東遺跡	上東	宅地造成工事	タ	21.02.23	タ
52	上東遺跡	上東	個人住宅建築工事	タ	21.02.26	タ
53	豎堀島海岸遺跡	児島唐琴町	桜の植樹	タ	21.03.03	タ
54	稗田城ノ辻城跡	児島稗田町	個人住宅建築工事	タ	21.03.16	タ
55	上東遺跡	上東	個人住宅建築工事	タ	21.03.17	タ
56	内出1号墳	真備町下二万	墳丘測量調査	測量	21.03.18	測量図作成
57	矢砂遺跡	真備町箭田	個人住宅建築工事	立会	21.03.18	遺物・遺構なし



調査地点位置図 (S=1/100,000)

しおなす 塩生遺跡発掘調査概要 (一覧表 No.18)

調査位置	児島塩生字濱1919番外	調査面積	70m ²
調査原因	工場建築工事	調査担当	小野・藤原
調査期間	20.08.04～20.08.25		

遺跡の概要 中世までは瀬戸内海に浮かぶ島であった児島の海岸には古墳時代の製塩遺跡が多く存在している。児島西岸の塩生に発達した砂洲上に営まれた塩生遺跡もその一つである。砂洲は南から北に向けて発達し、長さ約800m、幅約100mに及んでいる。この砂洲上には、戦後すぐの時期から製塩土器の散布や粘土を張った採鹹土坑の存在が知られていた。また、砂洲上から弥生前期の土器も出土しており、古い時代から人が住んでいたことがわかる。

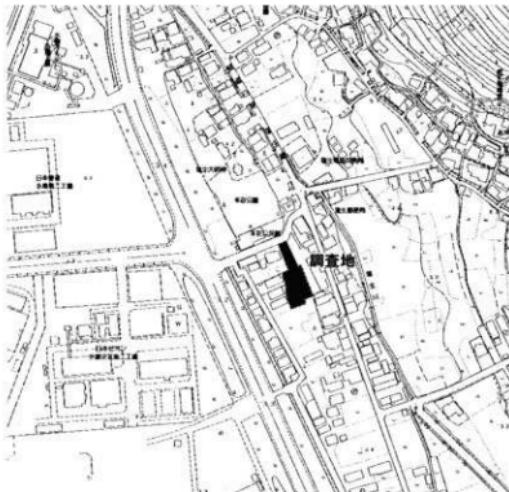
今回の調査地は、倉敷市本荘公民館の道を挟んだ南側にある。該当地においては平成5年度に賃貸マンション建設工事に伴って確認調査を実施しているが、その後、マンション建設は実施されず、新たに工場の建築が計画されたため、今回の調査に至ったものである。

なお、平成5年度の調査では、地表下20～40cmで、古墳時代の製塩土器を中心に古代の須恵器・土師器などを含む包含層を検出している。また、中世のものと考えられる内側に粘土を張った採鹹土坑2基、炉跡1基を確認している。

調査の概要 建築予定の建物は敷地南端に計画されており、平成5年度の調査トレンチ2か所と係っている。これらのトレンチからは包含層と数基のピットが確認されているが、採鹹土坑等は確認されていない。このため、採鹹土坑等の存在する可能性は低いと考えられたことから、建築面積全面の調査ではなく、両トレンチとはずれた位置に2か所の調査区を設定して発掘を行った。

1区（約9×5m）は予定建物の北東部分、2区（約5×5m）は予定建物の南西部に設定した。以下、調査区ごとに解説する。

1区 厚さ20～30cm程の旧耕作土の下に、厚さ20cm程の灰黄褐色砂質土があり、その下が製塩土器を多く含む包含層となっている。包含層の下は明黄褐色砂（無遺物層）である。この砂層は調査区の西端で標高3.25m、東端で標高2.95mと東へ向かって下がっていることがわかる。また、包含層の遺物のはほとんどは古墳時代の製塩土器であるが、古墳時代の須恵器をはじめ、古代・中世の土師質土器や骨角器、獸骨等も



調査地位置図 (S=1/5,000)



土壤墓1・2検出状況（西から）



粘土張土坑半裁状況（南西から）

含まれている。検出された遺構は炉状遺構1基、粘土張土坑1基、土壙墓2基、土坑1基、ピット3基である。

炉状遺構は調査区の東壁にかかる形で検出された。浅い窪みに明黄褐色の山土を張り、さらに暗灰色の粘土を貼り付けたもので、内側に15~20cm大の角碟が配置されている。平成5年度に検出された炉跡と同様のものと推定される。

粘土張土坑としたものは調査区のほぼ中央で確認された。直径約2m、深さ約50cmで、底には厚さ20cm程に粘土が張られていたが、この粘土は土坑側面に及ぶものではなかった。平成5年度に検出された採糞土坑は深さが1m程もあり、全面に粘土が張られる等、今回のものとは趣を異にしている。今回の調査で検出した粘土張土坑は、採糞土坑を制作途中の状態、あるいは使用後に破壊された状態である可能性がある。

土壙墓1は調査区の東端で検出され、1×0.5m

程の墓壙の中に、手足を折り曲げた状態で埋葬されていた。副葬品などは確認されなかつたが、小柄な体軸から女性か成人前の人人物ではないかと推定される。

土壙墓2は約1.3×0.7mの墓壙の中に、土壙墓1ほどではないが、手足を折り曲げた状態で埋葬されており、大腿骨の大きさなどから、かなり大柄の人物であったと推定される。なお、イソガネではないかと推定される鉄器1点が副葬されていた。また、飯蛸壺1点も検出されたが、副葬品であるかどうかは今後の検討を要する。

2区 厚さ40cm程の旧耕作土の下が包含層となり、調査区南西角には土器溜まりが確認された。土器溜まりの下は明黄褐色細砂（無遺物層）である。この砂層は調査区の北東端で標高2.9m、南西端で標高2.6mと南西へ向かって下がっていることがわかる。また、包含層の遺物のほとんどは古墳時代の製塙土器であるが、須恵器、獸骨等も含まれている。検出された遺構はピット7基である。

今回の調査で得られた成果として、砂洲の地形的な情報を得ることができたことと土壙墓を確認したことがあげられる。まず、1・2区の土層の観察から両調査区の中間付近に南北に延びる砂洲の尾根筋が通っており、東西に向かって低くなることが確認できた。今回の調査地は砂洲のほぼ中央付近であり、古地形の復元において重要な意義を持っている。次に、土壙墓1・2の検出については、調査前には全く予想していなかった。伴出遺物が少ないため明確な時期を計りかねるが、周辺から出土した土器などから、概ね中世から近世前半のものではないかと推定される。砂洲上での人々の活動を知る重要な資料であると考えられ、今後、年代の絞り込みが望まれる。

（藤原）

みぞおち
溝落遺跡発掘調査報告 (一覧表 No.29)

調査位置 児島塩生字金浜3066番外
調査原因 露天駐車場造成工事 調査面積 160m²
調査期間 20.10.13～20.10.16 調査担当 小野・藤原

遺跡の概要 溝落遺跡は縄文時代から中世にかけての遺跡である。倉敷市水島地区から国道430号線を南下して児島塩生に入ると間もなく金浜の集落にさしかかる。この地域は旧児島の西岸部にあたり、かつての海浜には古墳時代の製塩遺跡として知られる金浜遺跡が存在する。溝落遺跡は金浜遺跡の東側、標高10m前後の丘陵斜面に立地する。溝落遺跡の調査歴については、2006年に倉敷市臨港消防署建設に伴う発掘調査を倉敷市教育委員会が実施している。発掘調査では、縄文時代早期から後期の土器、石器類、玦状耳飾などの遺物が出土した。特に石器類には、石鏃、スクレイパー、石匙、石錐などの他、サスカイトの板状剥片や流紋岩の剥片も多くみられ、石器素材の流通を考えるうえで注目される。また、2018年には、資材置場建設等に伴う確認調査を実施し、今回の調査区のすぐ西側の地点で縄文時代の遺物を包含する二次堆積層が確認された。なお、この確認調査の原因となった工事は行われていない。

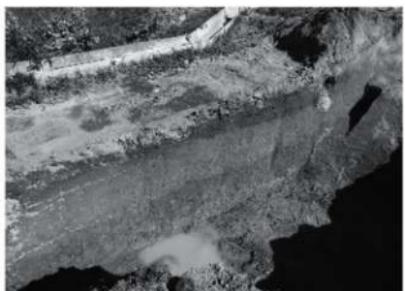
調査の概要 開発予定地は標高6～9mの西向きの斜面で、掘削工事が計画されている東側高所のうち、当初は南北18m、東西20mの範囲を調査する予定であった。2018年の確認調査で遺物包含層が確認されたトレント1(2m×2m)が開発予定地に含まれているが、この地点では掘削工事が遺跡に与える影響がほとんどないため、調査対象外とした。



調査区位置図 (S=1/5,000)



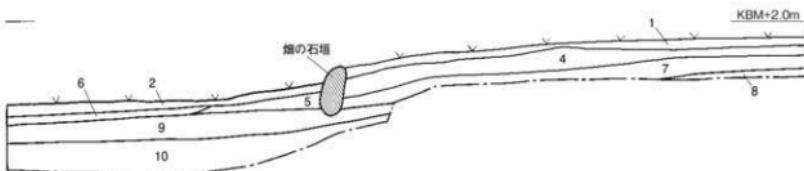
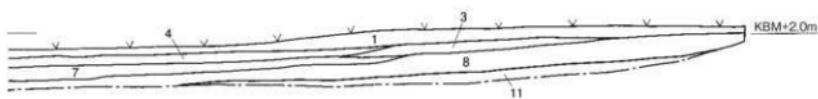
調査区全景(東から)



調査区北壁の西端部

調査のはじめに、調査区の北端にトレーナーを掘開して土層観察を行った。表土、耕作土の直下には灰黄褐色土(7層)、にぶい黄褐色土(8層)の堆積層がみられ、その下は地山が風化した層と考えられる黄灰色砂質土(11層)となっている。これまでの調査から、7層、8層に遺物が含まれることが予想されたが、結論から言えば、南北8m、東西20mの範囲まで発掘を続けるも遺物はほとんど出土しなかった。このため、それ以上調査面積を広げることなく、予定の半分以下で発掘調査を終了することになった。調査終了間際に、遺物包含層の広がりを探るため、調査区北端のトレーナーを西に5mほど延長した。地表下60~70cmでにぶい黄褐色土(10層)が見られ、この層が遺物包含層に相当すると判断されたが、遺物の出土は全く確認できなかった。このことから、遺物が含まれる場所は10層が広がる範囲の中でも局所的であると推測される。

調査終了後、掘削工事の際に立会調査を行ったが、遺物の出土は認められなかった。(小野)



北壁層序

- | | | |
|------------------------|------------------------|----------------------|
| 1 10YR3/1 黒褐色土(腐植土) | 5 10YR4/1 握灰色土(耕作土) | 9 10YR5/3 にぶい黄褐色土 |
| 2 10Y4/2 灰黄褐色土(耕作土) | 6 10YR4/3 にぶい黄褐色土(耕作土) | 10 10Y6/2 灰褐色砂質土(Mu) |
| 3 10YR5/3 にぶい黄褐色土(耕作土) | 7 10Y4/2 灰黄褐色土 | 11 25Y5/1 黄灰色砂質土(地山) |
| 4 10Y4/2 灰黄褐色土(耕作土) | 8 10YR5/3 にぶい黄褐色土 | |

調査区北壁断面図(S=1/80)

じょうとう
上東遺跡確認調査報告 (一覧表 No.34)

調査位置 上東字萬茶羅寺711番3外
調査原因 宅地造成工事
調査期間 20.11.18
調査面積 4m²
調査担当 小野・藤原

遺跡の概要 上東遺跡は倉敷市北東部の庄地区に位置し、足守川が形成した沖積地に立地している。これまでにも山陽新幹線建設や主要地方道建設工事に伴って発掘調査が行われ、弥生時代後期を中心とする大規模な集落遺跡であることが確認されている。今回の調査地点は、山陽新幹線から南へ約500m下った地点で、庄公民館や庄公園の東側にある。附近は急速に宅地化が進んでおり、ここ数年は年に複数回の宅地造成に伴う確認調査が続いている。それら調査の結果、庄公園の西や南の区画では弥生時代から中世にかけての遺構が検出されているが、今回の調査地の東側一帯では遺構が確認されず、低湿地であったと推定されている。

調査の概要 調査は該当地に2×2mのトレーニング1か所を設定し、土層観察を中心に実施した。

既に厚さ80cm程の造成が行われていたが、その下には耕作土、床土があり、さらに黄灰色砂質土、褐灰色粘質土、黄褐色砂質土と堆積していた。黄灰色砂質土の下（標高1.3m附近）からは溝状遺構1、ピット2基、土坑1基が検出された。褐灰色粘質土はトレーニング北壁に沿って存在する溝状遺構の埋土である。ここからは土師質土器碗の



遺構検出状況（北から）



トレーニング配置図 (S=1/5,000)

細片が出土しており、溝状遺構は中世のものと推定される。ピットは2基とも径40cm程である。土坑はトレーニング西側に続くので規模は不明であるが、検出範囲内では径1.3m程である。ピットと土坑は埋土の掘削を行っていないので、時期などは不明である。

今回の調査では、中世の溝状遺構、ピットや土坑を検出し、西方の庄公園付近から続く微高地がこのあたりまで達していることを確認できた。

(藤原)

広田山古墳確認調査報告 (一覧表 No.49)

調査位置 藤戸町天城1967番1

調査原因 宅地造成工事

調査面積 2m²

調査期間 21.02.09

調査担当 小野・藤原

遺跡の概要 広田山古墳は岡山県立倉敷天城高等学校の東方、標高25m程の尾根上に所在している。径7mほどの小古墳で、墳丘上に石材が認められることから横穴式石室を備えるのではないかと推定されていた。所在する丘陵の南側には現在、倉敷川が東流し、児島湖に注いでいるが、中世までは藤戸の瀬戸と呼ばれる海峡であった。南岸は児島で、児島北岸航路の要衝であり、源平藤戸の合戦の舞台としても有名であり、付近には藤戸寺や経が島等の合戦にまつわる史跡が多く所在している。周辺の遺跡としては、少し西方に横穴式石室墳とされる桜山古墳が存在したが、1970年代に土砂採取によって消滅している。中世とされる広田山貝塚ではハイガイの散布を確認している。なお、近世には岡山藩家老池田家の陣屋が置かれ、児島と岡山を結ぶ交通の結節点として重視されていた。

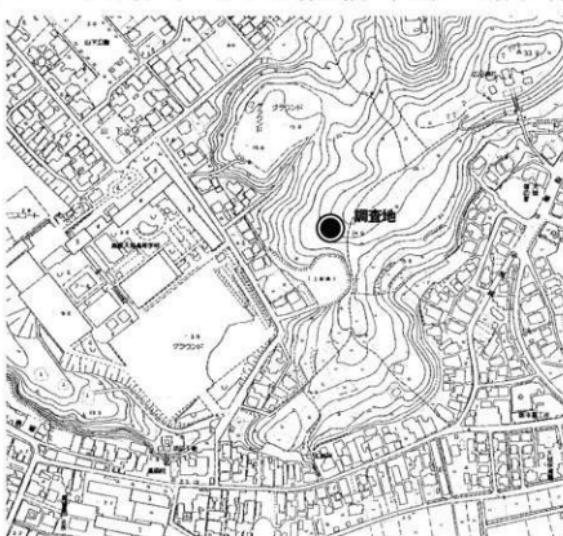
調査の概要 調査は墳丘の東西に2か所のトレンチを設定し、土層観察を中心に実施した。

墳丘の西側に設定したトレンチ1では、腐植土の下から混貝土層が検出された。ハイガイ、マガキ、ハマグリなどが含まれているが、小ぶりなものが多く、中世まで遡るものではないと推定される。その下はすぐに地山であり、貝以外の遺物や遺構は確認できなかった。

墳丘の東側に設定したトレンチ2では、腐植土の下からすぐに地山が確認された。地山の上面は木や竹の根が入り込んで、かなりでこぼこした状況であった。また、墳丘周囲の平坦部には、古くに開墾されていた際の耕作土と考えられるにぶい黄橙色土が堆積していたが、遺物や遺構は検出されなかった。

今回の調査では古墳時代の遺物は検出されず、盛土も確認されなかったことから、広田山古墳とされた地形は古墳ではないと考えられる。古い航空写真を見ると1950年代までは周間に開墾が及んでおり、畑地の間に取り残された残丘であった可能性が高い。ただし、頂部に豊島石五輪塔の部材が存在することから、中世墓が存在する可能性は否定できない。

(藤原)



調査地位置図 (S=1/5,000)

うといで
内出1号墳測量調査報告 (一覧表 No.56)

調査位置 真備町下二万771番1番外

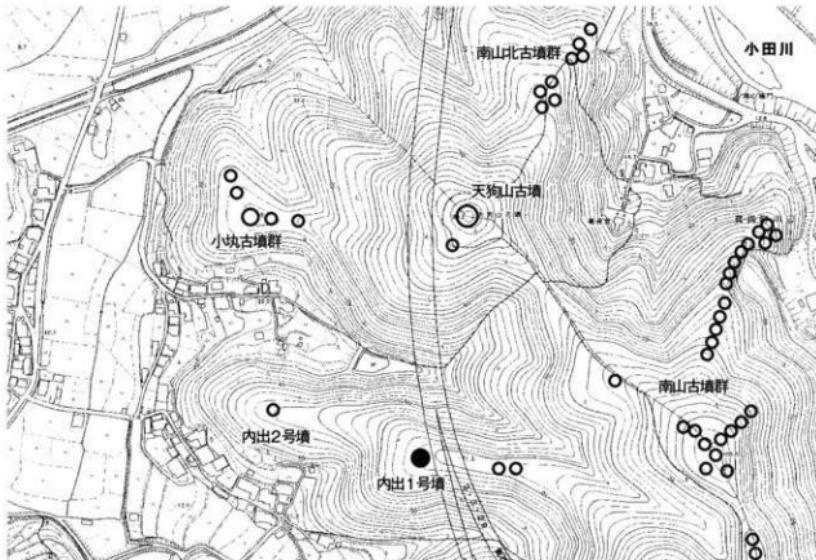
調査原因 墳丘測量調査

調査面積 1,700 m²

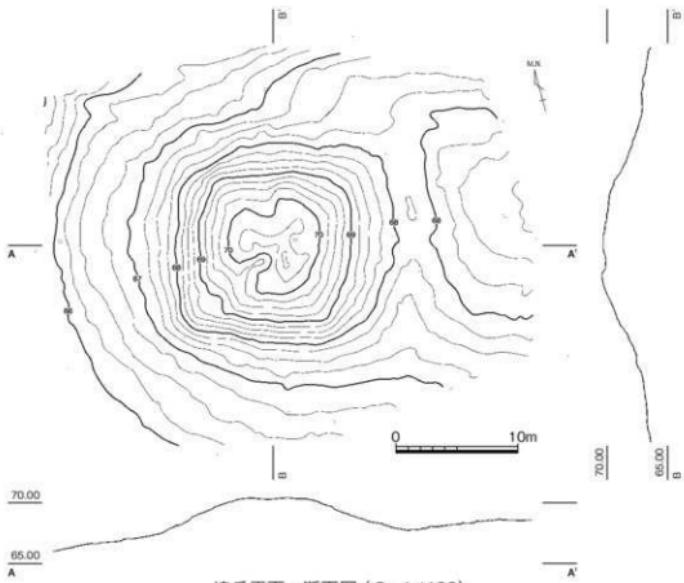
調査期間 21.03.18

調査担当 藤原

遺跡の概要 内出古墳群は、方墳1基、小円墳3基から成る古墳群である。高梁川と小田川の合流点の西側には標高120m程の南山山塊が所在し、ここから西に突出する標高70m程の尾根上に内出1号墳は立地している。なお、他の3基については、1号墳から西へ25m程下った尾根上に2号墳が存在し、約100m程東方に3・4号墳が所在している。南山山塊の西側には北から小さな谷が入り込み、内出1号墳からはこの谷越しに北西方向の小田川や真備町の平野部を望むことができる。しかし、それ以外の方向に関しては周囲の山並みによって視界が閉ざされている。また、谷を挟んで北側の山頂(標高約88m)には天狗山古墳、その西下方には小塙1号墳等の帆立貝形前方後円墳が立地し、東方には標高約102mの山頂を中心に南山古墳群が存在する。さらに西方には勝負砂古墳や二万大塙古墳等も存在し、古墳時代中期後半から後期初頭の有力古墳が集中している区域である。このような中で内出1号墳は、埴輪を備えた一辺20m程の方墳で、竪穴式石室を持つと認識されていた。西方の勝負砂古墳や二万大塙古墳を除くと、南山山塊においては天狗山古墳、小塙1号墳に次ぐ規模の墳丘を持つ古墳である。吉備地域における他の大型方墳等の時期を考慮すると、天狗山古墳、小塙1号墳に先行するものである可能性があり、これらの古墳出現の契機を考える上で重要な意味を持つものであ



位置図 (S=1/5,000)



墳丘平面・断面図 ($S=1/400$)

ると考えられる。このため、まずは今後の基礎資料とするために、測量調査を行ったものである。

調査の概要 調査は墳丘が方形であることを明確化するとともに、段築の有無、東側の堀切の形状、周囲の平坦面の広さを把握することを目的として実施した。実際の作業は業者委託し、地上設置型三次元レーザー測量によって平面図(等高線図・傾斜量図)・断面図を作成した。

測量の結果、墳丘は方形であることを確認でき、規模は一辺20m弱と推定された。墳端は東側で標高68.0m付近、その他の三方で標高67.5m付近が考えられる。墳丘高は東側の堀切底から約2.75m、西側の想定墳端ラインからは約3.25mである。墳頂部の標高は70.5mである。段築の有無は明瞭ではないが、東側と北側の標高68.5m付近にわずかに傾斜の変化が認められることから、二段築成である可能性が高い。堀切の東側は標高68.75mと墳頂部より低く、東に向かってしばらくは平坦である。また、東側を除く三方では墳丘を囲む平坦面が存在するようであるが、北側は東西に通じる山道によって乱されている。

なお、伐採後に目視による主体部と墳丘外表施設の精査を行った。主体部については堅穴式石室の存在が推定されており、実際に墳頂部の凹みに石材の露出を確認した。この石材は主体部の天井石と考えられるが、堅穴式石室か箱式石棺かの判断はできなかった。また、墳頂平坦面(想定)のやや南寄りに存在し、尾根筋に沿った方向に主軸を持つと推定されることから、北側にもう一つ主体部が存在することが想定される。ただ、どちらも乱掘を受けているようである。外表施設については、墳丘の西側及び南側を中心に角礫を主体とした葺石が存在することを確認した。しかし、埴輪については今回は採取することができなかつた。

(藤原)

V 寄贈図書一覧 (2020.4.1 ~ 2021.3.31)

北海道 苫小牧市埋蔵文化財調査センター	覚生1遺跡・覚生2遺跡、勇振1遺跡
岩手県 北上市立埋蔵文化財センター	妻川遺跡(2018年度)、道地遺跡(2018・2019年度)、卯ノ木遺跡(2018年度)、北上市内試掘調査報告(2018年度)、北上市立埋蔵文化財センター紀要第7号、北上市埋蔵文化財年報(2018年度)
岩手大学平泉文化研究センター	岩手大学平泉文化研究センター年報 第8集
山形県 東北芸術工科大学芸術学部歴史遺産学科	歴史遺産研究 第14号、日向洞窟遺跡
茨城県 筑波大学歴史・人類学専攻	筑波大学 先史学・考古学研究第31号
埼玉県 吉見町埋蔵文化財センター	町内遺跡14
千葉県 千葉市埋蔵文化財調査センター	埋蔵文化財調査(市内遺跡)報告書 - 令和元年度 -、千葉市うならすず遺跡、千葉市餅ヶ崎遺跡
(公財)千葉市教育振興財团 国立歴史民俗博物館	石斧展、千葉市親音塚遺跡(第3次)、千葉市根崎遺跡(第7次) 国立歴史民俗博物館研究報告 第219集~第222集、令和2(2020)年度 国立歴史民俗博物館 要覧
東京都 宮内庁書陵部 文化庁 早稲田大学考古学会 青山学院大学文学部史学科研究室	書陵部紀要第71号・第71号(陵墓篇) 地方における文化行政の状況について(平成30年度) 古代第146号・第147号 青山史学 第三十八号
富山県 小矢部市教育委員会	令和元年度小矢部市埋蔵文化財発掘調査概報、平成30年度小矢部市埋蔵文化財発掘調査概報、岸川遺跡発掘調査報告書 II~IV 射水市内遺跡発掘調査報告12・13
石川県 能登町教育委員会	重要有形民俗文化財 能登内浦のドブネ 保存修理報告書
長野県 松本市教育委員会	松本城下町跡伊勢町 第29次発掘調査報告書、史跡松本城南・西外堀跡 試掘調査報告書、横田遺跡 第3次発掘調査報告書・大村塚田遺跡 第3次発掘調査報告書、大輔原遺跡 第10次発掘調査報告書、長野県松本市 麻神遺跡 第3次発掘調査報告書 長野県立歴史館たより vol.103~vol.106
静岡県 静岡県埋蔵文化財センター	ふじのくに考古通信 Vol.19・Vol.20
愛知県 (公財)瀬戸市文化振興財團 豊田市 南山大学人類学博物館	(公財)瀬戸市文化振興財團埋蔵文化財センター研究紀要第22輯 新修豊田市史 1 通史編 原始、新修豊田市史 2 通史編 古代・中世 南山大学人類学博物館紀要第39号
三重県 志摩市教育委員会	三重県志摩市遺跡地図、鈴鹿市考古博物館年報第21号、史跡伊勢国分寺跡保存整備事業報告書、伊勢国府跡22、発掘された鈴鹿2018、発掘された鈴鹿2019
滋賀県 守山市立埋蔵文化財センター 東近江市埋蔵文化財センター	守山市文化財調査報告書 東近江市埋蔵文化財調査報告書第38集~第39集、東近江市指定史跡伊庭御殿

(公財)滋賀県文化財保護協会 (公財)栗東市スポーツ協会	遺跡総合調査報告書 おうみ文化財通信 Vol.43～Vol.46、紀要 第33号、「道の交わるところ-役所と城」上鉤・下鉤東遺跡 平成29年度1次調査、野尻遺跡発掘調査報告書 平成30年度2次調査、野尻遺跡発掘調査報告書 平成30年度3次調査、林・多福寺遺跡発掘調査報告書 平成30年度1次調査、林・多福寺遺跡発掘調査報告書 平成30年度2次調査、小柿遺跡 令和元年度1次調査、辻遺跡発掘調査報告書 平成31年度1次調査、野尻遺跡発掘調査報告書 令和2年度1次調査、下鉤東遺跡発掘調査報告書 令和2年度3次調査
野洲市教育委員会	令和元年度野洲市文化財調査概要報告書、令和元年度野洲市埋蔵文化財調査概要報告書、平成29年度 小糸原遺跡発掘調査概要報告書、令和2年度野洲市内遺跡発掘調査年報、市三宅東遺跡発掘調査概要報告書、令和2年度野洲市文化財調査概要報告書
高島市教育委員会	高島市内遺跡調査報告書、平成30年度、大津城遺跡発掘調査報告書、法蓮寺・太田町遺跡発掘調査報告書
滋賀県文化スポーツ部 日野町教育委員会 滋賀県立安土城考古博物館 滋賀県立大学人間文化学部	三津屋遺跡、脇館遺跡、塩津港遺跡2、滋賀県内遺跡発掘調査報告書 日野町埋蔵文化財発掘調査報告書第23集・第24集 おおてみち第112号～第114号 人間文化49号・50号
京都府 (公財)京都府埋蔵文化財調査研究センター	京都府埋蔵文化財情報第137号～139号、動乱の世から太平の世へ、もっと知りたい京都の遺跡第7号・第8号 年報 都城32、長岡京跡 内裏下層遺跡 京都府埋蔵文化財調査報告書(平成31年度)
(公財)向日市埋蔵文化財センター 京都府教育庁 京都市文化芸術都市推進室	京都市内遺跡発掘調査報告 令和元年度、京都市内遺跡試掘調査報告 令和元年度、都市内遺跡詳細分布調査報告 令和元年度 令和元年度与謝野町国庫補助事業発掘調査報告書
与謝野町教育委員会 南丹市立文化博物館	南丹市立文化博物館だより第16号、岩崎革也 宛書簡集Ⅲ、ランプ 夜を彩る文明の華・江上進コレクション、幕末から明治のくらし～転換期に生きた丹波のひとびと～、八木城と内藤氏・戦国争乱の丹波、八木小学校所蔵文書調査報告書、森本晴雲～詩墨画の世界～
綾部市資料館	綾部市遺跡地図(改訂版)、施福寺文化財調査報告、史跡私市円山古墳災害復旧整備事業報告書、西町遺跡第6次調査報告
(公財)京都市埋蔵文化財研究所	平安京左京五条二坊八町跡、妙満寺の構え跡、平安京右京四条三坊三町跡、平安京右京三条三坊十四町跡、平安京左京四条四坊一町跡、烏丸御池遺跡、平安京右京六条三坊四町跡、伏見城跡、史跡本願寺境内、名勝滴翠園、平安京跡、圓融寺跡、成勝寺跡、白河街区跡、岡崎遺跡、平安京左京八条三坊一町跡、東本願寺前古墓群、白河街区跡、吉田上大路町遺跡、音羽、五条坂窯跡(道仙窯)、法住寺殿跡、室町殿跡、上京遺跡、平安京左京四条四坊十二・十三町跡・富小路跡、平安京右京五条四坊六町跡、西京極遺跡、平安京右京一条四坊二・七町跡 京都橘大学大学院研究論集 第18号 得長寿院跡、白河街区跡、岡崎遺跡 2018年度調査報告書
京都橘大学 京都外国语大学国際文化資料館	高槻市文化財年報 平成30年度、鷺上遺跡群44、安満遺跡確認調査報告書その2-平成26・27・28年度 農場北川地区 - 泉南市遺跡群発掘調査報告書37
大阪府 高槻市立埋蔵文化財調査センター	海を渡った交流の証し - 遺物からみた五世紀の倭と朝鮮半島 -、令和元年度国庫補助事業発掘調査報告書、百舌鳥古墳群の調査14、太井遺跡(TAI-11) 発掘調査概要報告 - 美原区黒山 -、大仙遺跡(DS-2) 発掘調査概要報告 - 堺区大仙町 -、日置莊西町遺跡(HKS N-7) 発掘調査概要報告、百舌鳥梅町遺跡(MZU-5) 発掘調査概要報告、陶邑窪跡群(地区)(SMT10) 発掘調査概要報告

(公財)八尾市文化財調査研究会	東郷遺跡 第64次調査、I 神宮寺遺跡(第4次調査)・II 水越遺跡(第28次調査)、令和元年度 (公財)八尾市文化財調査研究会事業報告、久宝寺遺跡 I 久宝寺遺跡(第68次調査) II 久宝寺遺跡(第82次調査)、東郷遺跡 第71次調査
豊中市教育委員会	文化財ニュース豊中 No.41、原田遺跡第16次発掘調査報告書、豊中市埋蔵文化財発掘調査概要 - 令和元年度(2019年度) -
枚方市教育委員会	枚方市埋蔵文化財発掘調査概要2019、平成30年度 枚方市埋蔵文化財調査年報2018
羽曳野市教育委員会	古市遺跡群X L I、羽曳野市内遺跡調査報告書 - 平成29年度 -
富田林市教育委員会	澣谷遺跡、令和元年度 富田林市内遺跡群発掘調査報告書
泉佐野市教育委員会	泉佐野市埋蔵文化財発掘調査概要第89号、令和元年度泉佐野市埋蔵文化財発掘調査概要
交野市教育委員会	平成31年度交野市埋蔵文化財発掘調査概要、交野市文化財だより第31号
池田市教育委員会	池田市埋蔵文化財発掘調査概報 2019年度
吹田市教育委員会	垂水南遺跡発掘調査報告書Ⅳ、令和元(2019)年度 埋蔵文化財緊急発掘調査概報
四條畷市教育委員会	四條畷市文化財調査年報第7号
河内長野市教育委員会	河内長野市埋蔵文化財調査報告書40
大阪府立近つ飛鳥博物館	博物館だより - アスカディア - 古墳の森 vol.52・vol.53、大阪府立近つ飛鳥博物館 館報23、堂山1号墳 - その被葬者像をさぐる -、王権麾下の古墳とその被葬者 - 古市古墳群の小規模墳 -
吹田市立博物館	吹田市立博物館 館報20、博物館だより No.82～No.84、万国博覧会「人類の進歩と調和」に至るまで
大阪府立狭山池博物館	発掘された土木技術 大和川流域の開発と水利、大阪府立狭山池博物館研究報告11
大阪歴史博物館	なにわ歴博カレンダー No.75、大阪歴史博物館年報 平成31年度
大阪大学埋蔵文化財調査室	大阪大学埋蔵文化財調査室年報5
大阪大谷大学	志学台考古第20号、歴史文化研究第20号
兵庫県	
姫路市埋蔵文化財センター	姫路市埋蔵文化財調査年報2020、村東遺跡、和久遺跡 - 第10次発掘調査報告書 -、姫路城下町跡 姫路城跡第388次発掘調査報告書、姫路城下町跡 姫路城跡第389次発掘調査報告書、宮ノ浦遺跡 - 第5次発掘調査報告書 -、山吹遺跡 - 第5次 - 第6次発掘調査報告書 -、姫路城下町跡 姫路城跡第408次発掘調査報告書、今宿遺跡 - 第4次発掘調査報告書 -、姫路城下町跡 姫路城跡第421次発掘調査報告書 -、姫路城下町跡 姫路城跡第422次発掘調査報告書 -、阿保遺跡第2地点24次発掘調査報告書 -、姫路城下町跡 姫路城跡第423次発掘調査報告書 -、姫路城下町跡 姫路城跡第424次発掘調査報告書 -、姫路城下町跡 姫路城跡第427次発掘調査報告書 -、市之郷遺跡第13次発掘調査報告書 -、播磨国分尼寺跡第7次 - 播磨国分尼寺周辺遺跡第4次発掘調査報告書 -、足利遺跡 - 第12次発掘調査報告書 -、豆田遺跡、大津口遺跡
伊丹市教育委員会	有岡城跡発掘調査報告書 XX IV、伊丹市埋蔵文化財資料
芦屋市教育委員会	平成10年度国庫補助事業 (2) 芦屋市内遺跡発掘調査概要報告書
加西市教育委員会	吸谷庵寺 II
赤穂市教育委員会	赤穂城攻略本、発掘された赤穂城下町5
尼崎市教育委員会	尼崎市内遺跡 発掘調査等、尼崎市埋蔵文化財調査年報 平成23年度 (2)
姫路市立城郭研究室	城郭研究室年報 vol.29
加古川市教育委員会	栗津遺跡発掘調査報告書、上村池遺跡発掘調査報告書 I
川西市教育委員会	平成30年度川西市発掘調査報告書
神戸市文化スポーツ局	神戸市西区の遺跡、昭和のくらし・昔のくらし14、木を視て森を見る - 植物利用の考古学 -、平成29年度 神戸市埋蔵文化財年報、熊内遺跡第8次発掘調査報告書、郡家遺跡第95次発掘調査報告書

福崎町教育委員会	前田遺跡 矢口遺跡、埋蔵文化財発掘調査報告書、狐塚遺跡 加治谷藪下五反畑遺跡
多可町教育委員会 兵庫県立考古博物館	奥中・前田遺跡 原田西遺跡2、塚口山廻遺跡、志染中梨木遺跡、喜多・城山城跡、前島・検上田遺跡、竹の前遺跡、史跡大中道跡保存活用計画、兵庫県立考古博物館NEWS vol26・vol27
(公財) 兵庫県まちづくり技術センター 播磨町郷土資料館 大手前大学史学研究所 奈良県	ひょうごの遺跡第103号 播磨町の文化遺産、館報R1 大手前大学史学研究所紀要 第14号
桜井市立埋蔵文化財センター	平成30年度国庫補助による発掘調査報告書、茶ノ木塚古墳、50cm下の桜井26、遺跡を科学する、炎を操る～古代人と火にまつわる物語～、令和元年度国庫補助による発掘調査報告書
奈良文化財研究所 橿原市教育委員会 宇陀市教育委員会 田原本町教育委員会 川西町教育委員会	古代瓦研究Ⅸ・X、埋蔵文化財ニュース No.178～No.179 平成30年度橿原市文化財調査年報、新堂遺跡Ⅲ、新堂遺跡Ⅳ 史跡 宇陀松山城跡 遺物編 I 田原本町文化財調査年報26、常設展図録、よみがえる弥生の祭場 佐々木塚古墳 第3～5次発掘調査報告書、佐々木塚古墳 第6次発掘調査報告書、鳥の山古墳 第3～13次発掘調査報告書
斑鳩町教育委員会	斑鳩文化財センター年報 第9号、中宮寺跡を掘る・聖徳太子ゆかりの尼寺の全貌～、斑鳩町内遺跡発掘調査概報 平成28～30年度(2016～2018)
上牧町教育委員会 帝塚山大学考古学研究所 桜井市郷土学研究センター	史跡 上牧古墳群整備基本計画、ふるさと上牧の歴史遺産、松里園古墳群 帝塚山大学考古学研究所研究報告XXII 史跡 櫻向遺跡第1期整備事業案報告書、鰐本遺跡の調査、櫻向学研究第8号、郷土学研究センター年報 第8号(令和元年度)、郷土考古学通信 Vol.14
(公財) 元興寺文化財研究所	平安京左京六条二坊十二町跡、烏丸綾小路遺跡、藤原京左京二条四坊・出合・膳夫遺跡、平安京左京九条三坊九町跡、烏丸町遺跡
奈良大学文学部考古学研究室 奈良大学文学部埋蔵文化財学科 天理大学附属天理参考館 天理大学考古学・民俗学研究コース	甲塚古墳発掘調査報告書II、坊主山古墳群出土品報告書 装飾付大刀の生産と流通に関する研究(1) 天理参考館報第33号 古事 第24冊
和歌山県	
(公財) 和歌山県文化財センター	天路山城跡、和田岩坪遺跡、祓殿石塚遺跡、湯川宿所跡、道の川集落跡、立野遺跡、公益財团法人和歌山県文化財センター年報2019、歩いて知るきのくに歴史探訪田辺城跡周辺の文化財を訪ねる、地宝のひびき・和歌山県内文化財調査報告会資料集・公開シンポジウム 方形周溝墓から古墳へ・和歌山県内の発掘事例から考える 発表資料集、高田土居城跡・守護勢力が築いた居館・湯浅党城館跡総合調査報告書、湯浅党の実像にせまる 発表資料集、湯浅党城館跡の保存と活用 発表資料集
有田川町教育委員会	調査研究紀要11、鳥取県埋蔵文化財センターの名品 下段遺跡 史跡大御堂廃寺跡保存活用計画
鳥取県	米子城跡第54次調査、埋蔵文化財調査室年報7、米子平野の考古学資料 鮎ヶ瀬遺跡・河原田A・B遺跡、米子市埋蔵文化財センター・米子市福市考古資料館年報第9号、国指定史跡米子城跡3、国指定史跡米子城跡4、米子城跡第55次調査概要報告書、米子市内遺跡発掘調査報告書、新屋小タイ田遺跡・新屋川添遺跡、青木宮塔遺跡、石井要害跡III、石井要害跡IV
鳥取県地域づくり推進部 北栄町教育委員会	青谷上寺地遺跡発掘調査研究年報2019、青谷上寺地遺跡15 平成30・令和元年度 町内遺跡発掘調査報告書

鳥取大学地域学部考古学研究室 鳥取県立むきばんだ史跡公園	大熊段1号墳 史跡妻木晚田遺跡松尾頭埴丘墓群発掘調査報告書、妻木晚田遺跡発掘調査研究年報2019 新鳥取県史 考古2 古墳時代 山ノ下遺跡Ⅱ・平ノ前遺跡Ⅱ 小鶴道祖神遺跡 町内遺跡発掘調査報告書XⅡ、史跡大山寺旧境内保存活用計画書
鳥取県立公文書館 (公財)鳥取県教育文化財団 (公財)鳥取県教育文化財団 大山町役場大山支所	森原神田川遺跡 大津地区、下黒田Ⅱ遺跡、国ヶ峰遺跡、若宮谷遺跡・シコノ谷遺跡、森原神田川遺跡 下ノ原地区、半明遺跡、小金川B遺跡、普源田峠路、ドキ土器まいぶん No.67 古代文化研究 第28号、たたら製鉄の成立過程、前近代鳥取県域における環境と人間 埋蔵文化財課年報(23) 平成30年度、タテチヨウ遺跡、朝酰矢田遺跡、福富松ノ前遺跡、松江城下町遺跡(母衣町115) 城山公園整備事業に伴う県史跡浜田城跡発掘調査報告書 史跡田儀櫻井家たたら製鐵遺跡調査整備報告書I、出雲国古代山陰道発掘調査報告書2、令和元年度出雲市文化財調査報告書、出雲弥生の森博物館研究紀要第8集
鳥根県古代文化センター (公財)松江市スポーツ振興財団 浜田市教育委員会 出雲市役所	出雲と大和 出雲弥生の森博物館より第38号、出雲・上塩治築山古墳とその時代 八雲立つ風土記の丘No.226・No.227
鳥根県立古代出雲歴史博物館 出雲弥生の森博物館 島根県立八雲立つ風土記の丘資料館	紀要 第1号、備中北部と美作西部の遺跡、所報吉備第68号～第70号、攻略！おかやまの中世城館 第六巻(備中國北部・中部編)、史跡こうもり塚古墳保存活用計画書、美作市とその周辺、特別史跡 旧閑谷学校、馬屋長田遺跡 馬屋出水遺跡 馬屋森向遺跡 岡山市埋蔵文化財センター年報19、岡山市埋蔵文化財センター研究紀要第12号、北方長田遺跡、津高団地遺群、南方釜田遺跡 埋蔵文化財関係統計資料・令和元年度、「埋蔵文化財専門職員の育成について」(報告)、岡山市埋蔵文化財報告50 高梁市の文化財 2000年前の吉備～なぜ弥生人は丘の上に住んだのか～ 総社市埋蔵文化財調査年報29(平成30年度) 津山城など No.24、津山城跡、津山弥生の里第27号 新修津市史 資料編 考古 津山松平藩町奉行日記 二十六、津博 No.101～No.107、平成30年度津山郷土博物館年報、津市史研究 第5号、津市史だより第15号・第16号、令和元年度津山郷土博物館年報、津山松平藩町奉行日記 二十七 倉敷考古館研究集報第22号 美術館ニュース第128号～第131号 岡山びと 第14号 岡山県立記録資料館紀要 第16号 岡山大学埋蔵文化財調査研究センター紀要2018、岡山大学埋蔵文化財調査研究センター報 No.62・No.63、鹿田遺跡14-17次調査 津倉古墳 倉敷の歴史 第30号 調査団ニュース 55号・56号
(財)倉敷考古館 岡山県立美術館 岡山シティミュージアム 岡山県立記録資料館 岡山大学埋蔵文化財調査研究センター 岡山大学大学院社会文化科学研究科 倉敷市歴史資料整備室 岡山県遺跡保護調査団事務局	ひろしまの遺跡第124号・第125号、箱山第1・2号古墳、一般国道185号改築
(公財)広島県教育事業団	

三次市教育委員会	事業に伴う埋蔵文化財発掘調査報告（1）、令和元年度ひろしまの遺跡2019-報告と講演・記録集、年報17 令和元年度
庄原市教育委員会	三次市埋蔵文化財年報- 平成30年度 - 佐田谷・佐田岬墳墓群発掘調査報告書 総括報告書、庄原市文化財だより 第7号・第8号
三原市教育委員会	三太刀遺跡・みたち古墳発掘調査概要報告書、天神山城跡・天神第2号古墳・ユウゼン第3号古墳発掘調査報告書
安芸高田市教育委員会	甲立第2・3号古墳
尾道市	港町尾道と中世陶器、尾道市内遺跡
呉市	灰ヶ峰砲台跡
広島大学考古学研究室	広島大学大学院文学研究科考古学研究室紀要第11号
広島大学総合博物館	HUM-HUM Vol13、広島大学埋蔵文化財調査研究紀要 第11号
山口県	
山口県埋蔵文化財センター	萩市大井地区所在遺跡、森国遺跡 下小田遺跡、山田遺跡、堀の内遺跡 川東遺跡 土井敷遺跡、見用遺跡、山口県埋蔵文化財センター年報・令和元年度普及公開事業等の記録、陶けん第33号 長登銅山跡IV
美祢市教育委員会	史跡周防銅銭司跡の研究 II、古代武器研究 vol.14 ~ vol.16
山口大学人文学部考古学研究室	てらこや理文2020春号、山口大学埋蔵文化財資料館年報- 平成27年度 -
山口大学埋蔵文化財資料館	
徳島県	
(公財)徳島県埋蔵文化財センター	西州津遺跡・佃遺跡、徳島県埋蔵文化財センター年報 Vol31 2019年度
徳島市教育委員会	史跡渋野丸山古墳発掘調査報告書II
香川県	
香川県埋蔵文化財センター	湊下山古墳・神野遺跡・山下岡前遺跡・六条下所遺跡・名遺跡、香川県埋蔵文化財センター年報 令和元年度、讃岐国府跡3、埋蔵文化財試掘調査報告32
さぬき市教育委員会	さぬき市内中世石造物分布調査（志度・末編）海女の墓石造物群基壇確認調査、さぬき市内中世石造物分布調査（鴨部・鴨庄）、上辛立遺跡、本村南遺跡、へんろ資料館紀要 I
三豊市教育委員会	宗吉かわらの里展示館 年報9、詫間町民俗資料館・考古館 年報1、宗吉瓦窯跡 男谷窯跡
香川県政策部	四国八十八ヶ所霊場第六十八・六十九番札所 神恵院・觀音寺調査報告書第2分冊、四国八十八ヶ所靈場第七十八番札所 鄕照寺調査報告書
坂出市教育委員会	開法寺跡 I
丸亀市教育部	丸亀市内遺跡発掘調査報告書第18集、史跡丸亀城 帯曲輪南石垣修理工事報告書、帶曲輪石垣下部発掘調査報告書
香川県立ミュージアム	香川県立ミュージアムニュース vol49 ~ vol52
愛媛県	
(公財)愛媛県埋蔵文化財センター	愛比光 2019（令和元）年度年報、湯榮城跡・発掘調査開始から30年を迎えて、紀要愛媛 第16号、山口古屋敷遺跡、朝倉下下経田遺跡
(公財)松山市文化・スポーツ振興財団	別府遺跡-2次・3次・4次調査-、松山市埋蔵文化財調査年報32、五郎兵衛谷7号墳
今治市教育委員会	市内遺跡調査報告書（平成30年度 個人民間開発試掘確認調査）、市内遺跡調査報告書（平成30年度 公共事業に伴う試掘確認調査）、小泉アツコ遺跡 第1次調査・第2次調査、史跡 能島城跡 遺物補遺編
上島町教育委員会	弓削島庄総合調査報告書
愛媛大学埋蔵文化財調査室	愛媛大学埋蔵文化財調査室年報-2017・2018年度-、文京遺跡VII・2
高知県	
(公財)高知県文化財団	高知県埋蔵文化財センター年報第29号、高田遺跡 II・東野遠山遺跡、文化財こうち第6号、室戸山明星院 最御崎寺 四国八十八箇所靈場第二十四番札所岡豈風日第109号・第110号、高知県立歴史民俗資料館年報 No.29
高知県立歴史民俗資料館	

香南市教育委員会	高田遺跡、安岡家住宅
福岡県	
小郡市埋蔵文化財調査センター	于湯遺跡10、小板井蓮輪遺跡5、三沢権道遺跡4、上岩田宮園遺跡、早馬、埋蔵文化財調査報告書11、松崎六本松遺跡3、三国小学校遺跡6・7、津古牟田遺跡6、三沢寺小路遺跡7
久留米市埋蔵文化財センター	史跡筑後国府跡保存活用計画【概要版】、歴史をつなぐ高良大社の文化財、久留米市文化財保護課年報vol.15、久留米市埋蔵文化財調査集報20、久留米城外郭遺跡・第4次発掘調査報告、久留米城外郭遺跡・第23次発掘調査報告、高三瀧遺跡・第5次発掘調査報告、筑後国府跡・第293次発掘調査報告、高三瀧遺跡・第9次発掘調査報告、庄島侍屋敷遺跡・第12次発掘調査報告、十間屋敷遺跡・第10次発掘調査報告、令和元年度久留米市内遺跡群、鍾水遺跡・第1次発掘調査報告。
北九州市教育委員会	中尾遺跡第2地点・富野菊ヶ丘遺跡、八旗神社古墳群第2地点、朽網南塚遺跡第3地点・第4地点、八皇子神社遺跡、長泉寺遺跡
大野城市教育委員会	大野市の文化財 第50集、谷蟹遺跡群1、後原遺跡5、宝松遺跡2、石勺遺跡8、上大利小水城跡2、金山遺跡3
筑紫野市教育委員会	太宰府条坊跡第312次発掘調査
春日市教育委員会	中白水遺跡・12次調査・塚原古墳群・2次調査、須玖岡本遺跡7、須玖坂本B遺跡・1・4次調査・宮ノ下遺跡・5・6次調査、前ノ原遺跡・1次調査。
豊前市教育委員会	馬場植田遺跡(遺構編)、馬場植田遺跡(遺物編)、堀立瀬戸口遺跡、大西崎ノ谷遺跡
朝倉市教育委員会	朝倉市文化財年報(平成27年度)、朝倉市文化財年報(平成28年度)、朝倉市文化財年報(平成29年度)、大仏遺跡・大仏古墳群
糸島市教育委員会	釜塚古墳
(公財)北九州市芸術文化振興財團	埋蔵文化財調査年報36、研究紀要・第34号、小倉城御用屋敷跡第2地点、小倉城天守台跡、山田遺跡4(5区)、小倉城三ノ丸跡第11地点、祇園町遺跡第12地点、昔原神社遺跡5(9区の調査)、則末遺跡、中村遺跡第3地点、砥石山遺跡第5地点、木町遺跡第2地点
福岡市経済観光文化局	博多166～169、羽根戸原C遺跡5、原遺跡21、比恵88、福岡城跡・第75次調査報告、麦野A遺跡10、席田平尾遺跡1、福岡市埋蔵文化財年報VOL33・平成30(2018)年度版、福岡市埋蔵文化財センター年報第38号、有田・小田部59、雀居13・14、山王遺跡11・12、那珂80～82、野方久保遺跡5
筑前町教育委員会	三国手遺跡第3地点、筑前町文化財調査概報I、東小田峯遺跡II
苅田町教育委員会	青龍竜ハンドブック、等覚寺の松会、等覚寺の山岳信仰と松会、史跡御所山古墳保存管理計画、まちの歴史1～5
九州歴史資料館	九歴だより No.51・No.52、九州歴史資料館研究論集45、太宰府と多賀城
佐賀県	
佐賀市教育委員会	福田遺跡・1区の調査、佐賀市埋蔵文化財確認調査報告書・2017年度・増田遺跡群Ⅳ・増田遺跡11～15区の調査、惣鹿遺跡・6・7区の調査、赤井手遺跡・2区の調査、北畠遺跡・14区の調査、与賀城跡・2区の調査、欄干御茶屋跡・1区の調査、史跡東名遺跡保存活用計画書、有明海の恵みと繩文文化、繩文のデザイン・古代人の感性と美・、さがの遺跡を掘る、日本最古の湿地性貝塚 国史跡東名遺跡
唐津市教育委員会	唐津市内遺跡確認調査(36)、谷口石切丁塚跡、黒岩前田遺跡
神埼市教育委員会	市内遺跡確認調査概要報告書XIII
熊本県	
熊本市観光文化交流局	熊本市埋蔵文化財調査年報第22号、立石遺跡群 石川二塚遺跡 山後遺跡 小野馬場遺跡、上代町遺跡群Ⅲ、二本木遺跡群26、熊本市埋蔵文化財発掘調査報告集・令和元年度・第1分冊、熊本市埋蔵文化財発掘調査報告集・令和元年度・第2分冊

大分県	
杵築市教育委員会	杵築城跡1
竹田市文化財管理センター	城原八幡社遺跡・舞渡遺跡・紙漉遺跡、竹田地区南部遺跡群発掘調査報告書・市内遺跡発掘調査Ⅵ、岡藩城下町遺跡群発掘調査Ⅱ 市内遺跡発掘調査X
宇佐市教育委員会	市内遺跡発掘調査概報28、小部遺跡II
日田市教育委員会	下中城遺跡、柳ノ本遺跡-3次調査-、城下町遺跡-6次調査-
宮崎県	
宮崎県埋蔵文化財センター	埋蔵文化財通信ひむか第22号、坪谷城跡、大浦遺跡、上高遺跡、みやざきの古墳保護・活用事業成果報告書、宮崎県埋蔵文化財センター年報第24号
宮崎市教育委員会	下北方5号地下式横穴墓、片瀬原第2遺跡、圓遺跡、平城遺跡、宮崎城跡、野中第1遺跡
都城市教育委員会	都城市内遺跡13、上水流松ヶ遺跡
鹿児島県	
鹿児島県立埋蔵文化財センター	埋文だより第82号～第84号
(公財)鹿児島県文化振興財團	～かごしまの遺跡～ 第22号～第24号
鹿児島大学埋蔵文化財調査センター	鹿児島大学構内遺跡 郡元団地I-9区 郡元団地F-6区 郡元団地R～T-7～9区
その他	
全国公立埋蔵文化財センター連絡協議会	公立埋文協会報第64号、「埋蔵文化財保護行政におけるデジタル技術の導入について」3J（報告）、埋蔵文化財関係統計資料、「埋蔵文化財専門職員の育成について」（報告）、小竹貝塚の骨から見えてきた縄文世界 「前方後円墳新発見！角田浜で、頸城平野で、あなたの町で…」
文化財保存新潟県協議会	平安京左京六条四坊八町跡
(株)四門	公益社団法人文化財保護協会『紀要』第4号
(公社)日本文化財保護協会	平安京左京三条四坊五町跡・烏丸御池遺跡
(株)イビソク	平安京左京三条四坊十町跡、烏丸御池遺跡発掘調査報告書、平安京左京二条三坊四町跡発掘調査報告書、相国寺旧境内、上御靈遺跡発掘調査報告書、上久世遺跡発掘調査報告書、平安京在京九条三坊八町跡、烏丸町遺跡発掘調査報告書、平安京左京六条三坊十六町跡、烏丸綾小路遺跡発掘調査報告書、平安京右京一条三坊六町跡発掘調査報告書
(株)文化財サービス	平安京左京二条四坊二町跡、烏丸丸太町遺跡、平安京左京三条三坊五町跡、烏丸御池遺跡、平安京左京二条二坊十町跡、高陽院跡、二条城北遺跡
合同会社アルケス	植物園北遺跡 発掘調査報告書
(株)地域文化財研究所	ろう石に彫られた弧帶文、石に彫られた直弧文、図鑑 古代幾何学图形 墓碑 祭祀の器台・はにわ IV
直弦文とアートの会	

附編 1

下津井 釜島採集の遺物

岡嶋 隆司

1はじめ

ここに報告する資料は、2013年7月13日と2018年4月23日の踏査時に表面採集したものである。釜島の資料は、これまでに幾つかの紹介がおこなわれているが^{①②}、採集した資料は新しい知見と考えられることから、ここに紹介することとした次第である。なお、踏査には筆者の他に竹内信三氏と濱本敏広氏の同行を得た。

2 採集地点

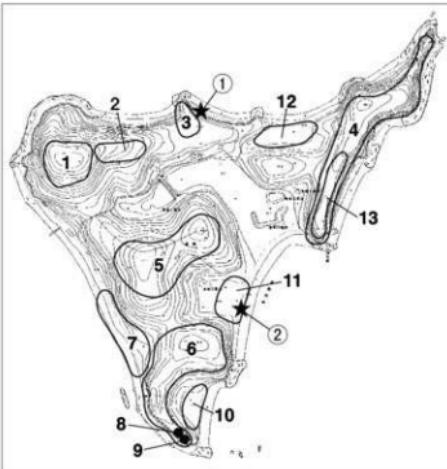
釜島は、名勝地と後期旧石器時代の遺跡で著名な鷺羽山の沖に所在し、現在では無人島となっている。同島では、現在10箇所の散布地・包含層と2基の古墳・1つの古墳群が確認されており^③、この中の釜島第1遺跡では、倉敷埋蔵文化財センターによる確認を目的とした発掘調査が行われている^④。これまでに同島では、後期旧石器時代・縄文時代の石器類と古墳時代の須恵器・製塙土器、中世の龜山焼が確認されている(第1図)。今回報告する資料は、釜島東の浜遺跡と釜島第3遺跡の北側砂浜で採集されたもので、共に砂浜に位置する(第1図★印)。また、釜島では同地点以外の砂浜でも、踏査時にサスカイト片・須恵器片・製塙土器片の散布と遺物包含層を確認している。

3 採集遺物

尖頭器(第2図1) 釜島第3遺跡北側の

砂浜(第1図★印①)で2013年7月13日に表面採集した安山岩製の木葉形尖頭器基部である。上部を折断により失っているが、現存で長さ47.0mm、全幅23.7mm、最大厚7.3mm、重量8.68gを測る。海浜部採集資料であることから全体的に波によるローリングを受けており、風化面は確認できず、素材の形状を復元することも困難である。直接打撃により調整されており、側辺には細かく剥離が施されている。形態などから本資料の帰属時期は、後期旧石器時代終末から縄文時代草創期と考えられる。

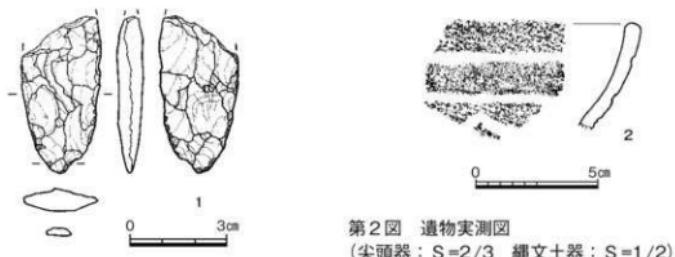
縄文土器(第2図2) 釜島東の浜遺跡(第1図★印②)にて2018年4月23日に竹内信三氏により表面採集された淺鉢形土器の口縁部片である。全体的に波により軽くローリングを受けている。口縁端



1 釜島第1遺跡 2 釜島第2遺跡 3 釜島第3遺跡
4 釜島第4遺跡 5 釜島第5遺跡 6 釜島第6遺跡
7 釜島西の浜遺跡 8 釜島南1号墳 9 釜島南2号墳
10 釜島南の浜遺跡 11 釜島東の浜遺跡
12 釜島北の浜遺跡 13 釜島東古墳群

第1図 釜島の遺跡(S=1/10,000)

部を丸く仕上げて、胴部に比べ僅かに肥厚させている。外面には、2本の沈線を平行に施文しており、その下には屈折した沈線を施文している。下段の沈線と屈折沈線間には磨消繩文らしき痕跡が認められる。また、上段の沈線と口縁部にも同様な痕跡が僅かに認められ、2本の平行沈線間では、土器片右端部において極僅かに確認することが出来る。内面は外面と同様、波によるローリングを受けている為、調整は不明である。胎土中に石英を多く含み、カリ長石・斜長石・流紋岩・石墨片石を含んでおり、流紋岩地域の粘土を用いている⁽⁴⁾。全て1mm以下のものである。以上の特徴から年代は、繩文時代後期、中津式土器と考えられる。



第2図 遺物実測図
(尖頭器：S=2/3 繩文土器：S=1/2)

4 おわりに

釜島では、これまでに旧石器・繩文時代の石器・古墳・古墳時代の土器類等の資料が知られており、幾つかの資料報告はおこなわれているが、全体的な実態は必ずしも把握できているものとは言えない。今回、僅か一片ずつの土器片と石器ではあるが、釜島における人類活動の空白期を埋める資料となるものと考え報告をおこなったものである。

今回の報告を行うにあたり、土器片については、採集者の竹内信三氏から心よく快諾を頂き、能美洋介氏・扇崎由氏・田嶋正恵氏からは有意義なご教示を頂いた。また、菅 紀浩氏には実測の労と石器についての計測と一部執筆を賜った。以上の方々に記してお礼申し上げます。

註

- (1) 間壁忠彦「第二章 旧石器時代」「新修倉敷市史 第一巻考古」倉敷市史研究会 1996
藤原好二「山本慶一氏寄贈の資料Ⅱ」「倉敷埋蔵文化財センター年報8」倉敷埋蔵文化財センター 2002
- (2) 倉敷市教育委員会「倉敷市遺跡地図 児島地区」2001
岡山県教育委員会「改訂岡山県遺跡地図 第5分冊倉敷地区」岡山県古代吉備文化財センター 2003
- (3) 藤原好二「釜島西丘上遺跡確認調査報告」「倉敷埋蔵文化財センター年報8」倉敷埋蔵文化財センター 2002
- (4) 岡山理科大学教授 能美洋介氏のご教示による。

附編2

平成30年7月豪雨と真備歴史民俗資料館被災資料

1 真備歴史民俗資料館の概要

倉敷市真備歴史民俗資料館（以下「真備歴」）は、倉敷市の北西部にあたる真備町箭田に所在する。建物は鉄骨造り2階建で、1階は展示室、2階は収蔵室となっており、平成17年に倉敷市と合併する前の旧真備町時代に建設された施設である。

2 真備歴の被災状況と展示資料

平成30年7月豪雨では、西日本を中心に河川の氾濫やがけ崩れが同時多発的に発生し、各地に甚大な被害を及ぼした。倉敷市においても岡山県三大河川の一つである高梁川の支流、小田川が7月7日に氾濫し、真備地区の多くの部分が冠水した。真備歴は、東西に流れるこの小田川から北へ約1kmの地点に位置するが、この辺りの浸水深は約4mで、1階展示室は天井面までが完全に水没した。被災後、最初に担当職員が真備歴の状況確認を行うことができたのは、5日後の7月12日であった。そこで確認したのは、1階天井の多くの部分が崩れ落ち、床に固定していない展示物は、ガラスケースなどの重量物も含めて原位置を留めておらず、また破損しているものも少なくない状態であった。

展示資料のうち民俗資料については、その大半が紙や木を素材としており、一定期間污水に浸かっていた状況から、安全な状態で再展示することは困難と判断し、やむを得ず他の汚損した展示物とともに破棄することとなった。一方考古資料については、壁面ケースやガラスケース内に展示していたため大きく移動していたものは少なく、ほぼ全ての資料を回収することができた。回収後は倉敷埋蔵文化財センターへ搬入し、入念な洗浄を行った後、遺物の状況に応じて再接合あるいは石膏による復元等の作業を行い、展示していた状態に戻すよう努めた。ただし、特殊器台のような大型土器の修復や保存処理済みの鉄製品の再処理については、当センターでは対応困難であったため、令和2年度に専門業者に委託し、資料の修復を行った（特殊器台の修復については、住友財團の文化財維持・修復事業の助成により実施）。

1階展示室が水没により全損した真備歴については、歴史民俗資料館として再生はせず、1階部分は2階と同様収蔵施設として活用することになり、令和2年9月に改修工事を終了した。展示していた考古資料の多くは現在埋蔵文化財センターに収蔵しているが、特殊器台や骨蔵器など真備町出土の重要遺物については、令和3年1月に復旧工事を終え再オープンした、隣接する真備図書館の一角において展示を行っている。

（鍵谷）



被災直後の展示室



真備図書館における展示状況

紙 質 表紙：サンマット 160kg (PP 張り)
本文：OK トップコートマット N70kg
折込：上質紙 70kg

D T P Mac OS 10.14.6 Adobe InDesign CC 2019 Adobe Photoshop CC 2019
使用フォント モリサワ OpenType フォント
(リュウミン L-KL・中ゴシック BBB・太ゴシック B101・
見出ゴシック MB31・じゅん101)
ヒラギノ明朝 Pro W3 ヒラギノ角ゴ Pro W3

製 本 無線綴じ

倉敷埋蔵文化財センター年報18 －令和元・2年度－

令和4年3月31日印刷発行

発 行 倉敷市教育委員会

編 集 倉敷埋蔵文化財センター

〒712-8046 倉敷市福田町古新田940番地

Tel.086-454-0600

The Annual Report
Of
Kurashiki Archaeological Center

Volume18 2019・2020



Kurashiki
Archaeological Center

March 2022